

鮫川村中心地域活性化拠点施設に関する
アンケート調査結果（全体版）

令和2年2月

鮫川村中心地域活性化協議会

○調査概要

調査の目的

本調査は、平成29年3月に策定した「鮫川村中心地域活性化基本構想」に掲げる中心地域の整備を推進するため、令和元年6月に「鮫川村中心地域活性化協議会」を設置し、手まめ館の運営等に関する課題解決のほか、子育て支援を一層進めるための環境づくりとして「中心地域活性化拠点施設」を整備するため検討を進めています。

この拠点施設に期待する点等を把握するとともに、整備計画に反映させることを目的として、広く村民のみなさまのご意見をお聞かせいただくために、村内の全世帯を対象にアンケート調査を実施しました。

調査の実施時期

令和元年12月

調査対象者

村内在住者

調査票の配布・回収方法

調査票の配布は、区長さん、納税組長さんを通じ配布し、回収は郵送により回収しました。

配布・回収結果

配布数 1,080枚 回収数 382枚 回収率 35.4%

留意点

回答結果のうち、複数回答の部分につきましては、回答者数（382人）を母数としているため、比率の合計は100%を越えます。3つ選んだ場合は最大で300%になります。

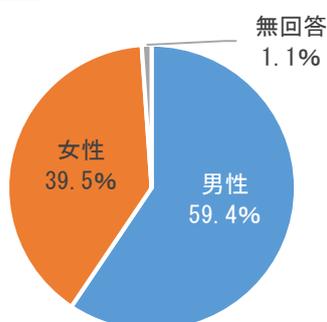
なお、自由意見については、記載内容に応じて分野別に要約、整理しました。

※手まめ館の名称は、正式には『鮫川村農産物加工・直売所「手・まめ・館」』ですが、この報告書では、手まめ館に統一しています。

※赤坂東野・石井草区については、スペースの関係で、「東石区」と記載している箇所もあります。

1 あなた自身についてお伺いします。

問1 あなたの性別をお答えください。（1つに○）



(単位：人、%)

回答項目	結果	割合
1. 男性	227	59.4
2. 女性	151	39.5
無回答	4	1.1
計	382	100.0

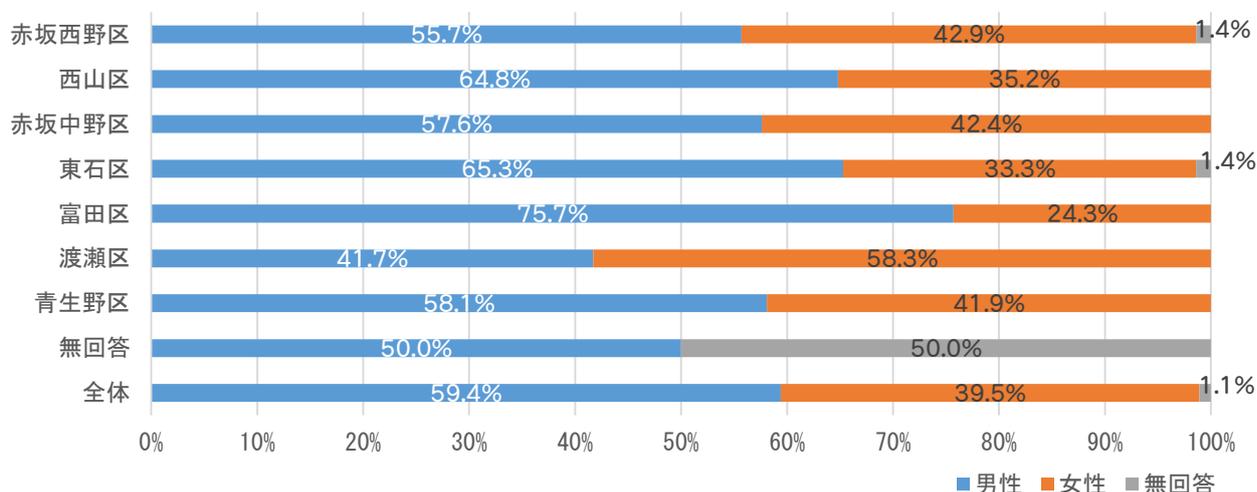
回答者の性別は、男性が59.4%、女性が39.5%、無回答が1.1%でした。

居住地域別では、男性の割合が最も多かったのは富田区で、女性の割合が最も多かったのは渡瀬区でした。

■問1と問3のクロス集計（回答者の居住地区ごとの性別構成）

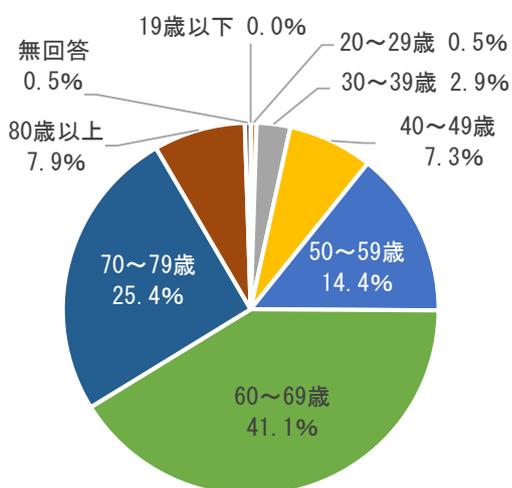
（単位：人、％）

居住地区	性別	結 果				割 合			
		男	女	無回答	計	男	女	無回答	計
1. 赤坂西野区		39	30	1	70	55.7	42.9	1.4	100.0
2. 西山区		35	19	0	54	64.8	35.2	0.0	100.0
3. 赤坂中野区		38	28	0	66	57.6	42.4	0.0	100.0
4. 赤坂東野・石井草区		47	24	1	72	65.3	33.3	1.4	100.0
5. 富田区		28	9	0	37	75.7	24.3	0.0	100.0
6. 渡瀬区		20	28	0	48	41.7	58.3	0.0	100.0
7. 青生野区		18	13	0	31	58.1	41.9	0.0	100.0
無回答		2	0	2	4	50.0	0.0	50.0	100.0
全 体		227	151	4	382	59.4	39.5	1.1	100.0



問2 あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか。（1つに○）

（単位：人、％）



回答項目	結果	割合
1. 19歳以下	0	0.0
2. 20～29歳	2	0.5
3. 30～39歳	11	2.9
4. 40～49歳	28	7.3
5. 50～59歳	55	14.4
6. 60～69歳	157	41.1
7. 70～79歳	97	25.4
8. 80歳以上	30	7.9
年齢無回答	2	0.5
計	382	100.0

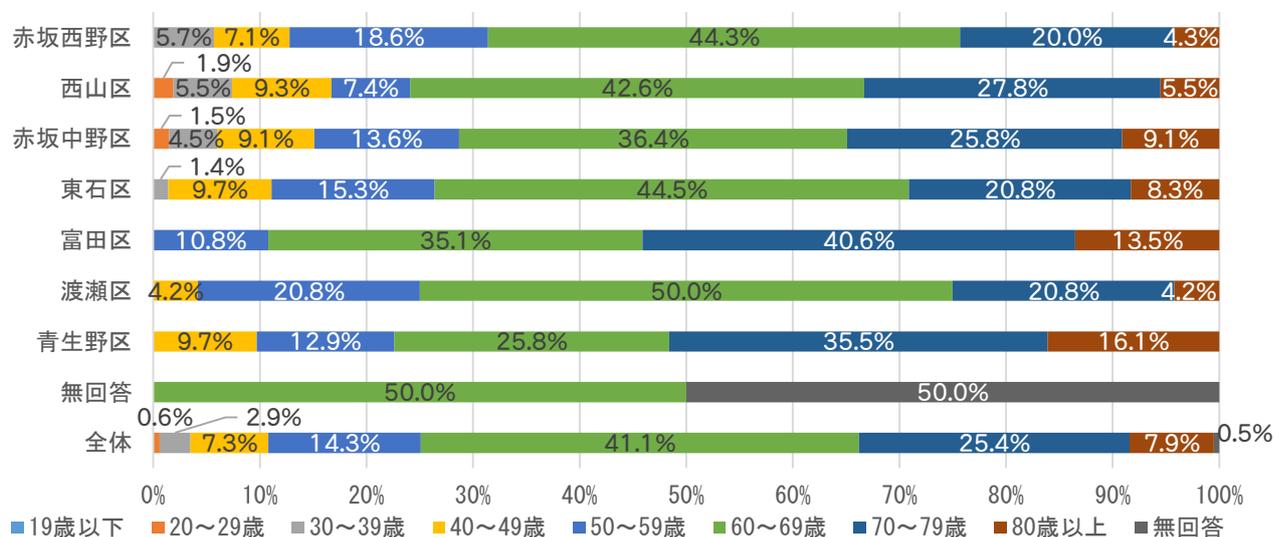
回答者の年齢は、60歳以上がおよそ75%を占め、最も多かったのは、60～69歳以上の41.1%でした。

居住地区別でみると、富田区と青生野区では70～79歳以上が最も多く、その他の地区では60～69歳が最も多くなりました。

■問2と問3のクロス集計（回答者の居住地区ごとの年齢構成）

上段：調査結果（人）／下段：割合（%）

居住地区	年齢									計
	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	年齢無回答	
1. 赤坂西野区	0	0	4	5	13	31	14	3	0	70
	0.0	0.0	5.7	7.1	18.6	44.3	20.0	4.3	0.0	100.0
2. 西山区	0	1	3	5	4	23	15	3	0	54
	0.0	1.9	5.5	9.3	7.4	42.6	27.8	5.5	0.0	100.0
3. 赤坂中野区	0	1	3	6	9	24	17	6	0	66
	0.0	1.5	4.5	9.1	13.6	36.4	25.8	9.1	0.0	100.0
4. 赤坂東野・石井草区	0	0	1	7	11	32	15	6	0	72
	0.0	0.0	1.4	9.7	15.3	44.5	20.8	8.3	0.0	100.0
5. 富田区	0	0	0	0	4	13	15	5	0	37
	0.0	0.0	0.0	0.0	10.8	35.1	40.6	13.5	0.0	100.0
6. 渡瀬区	0	0	0	2	10	24	10	2	0	48
	0.0	0.0	0.0	4.2	20.8	50.0	20.8	4.2	0.0	100.0
7. 青生野区	0	0	0	3	4	8	11	5	0	31
	0.0	0.0	0.0	9.7	12.9	25.8	35.5	16.1	0.0	100.0
無回答	0	0	0	0	0	2	0	0	2	4
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0
全 体	0	2	11	28	55	157	97	30	2	382
	0.0	0.6	2.9	7.3	14.3	41.1	25.4	7.9	0.5	100.0

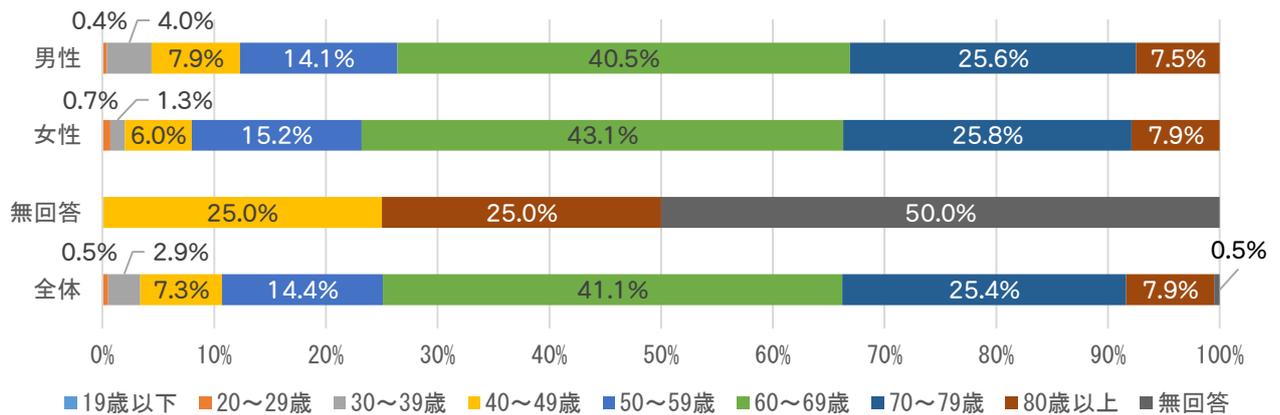


次に性別ごとにみますと、男性・女性ともに60～69歳が最も多く、続いて70～79歳となりました。

■問1と問3のクロス集計（回答者の性別ごとの年齢構成）

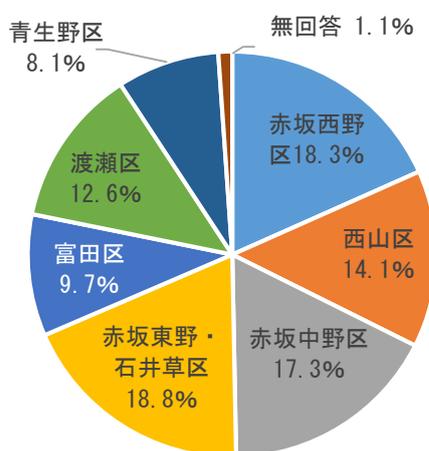
上段：調査結果（人）／下段：割合（％）

性別	年齢									
	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	年齢無回答	計
1. 男性	0	1	9	18	32	92	58	17	0	227
	0.0	0.4	4.0	7.9	14.1	40.5	25.6	7.5	0.0	100.0
2. 女性	0	1	2	9	23	65	39	12	0	151
	0.0	0.7	1.3	6.0	15.2	43.1	25.8	7.9	0.0	100.0
無回答	0	0	0	1	0	0	0	1	2	4
	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	100.0
計	0	2	11	28	55	157	97	30	2	382
	0.0	0.5	2.9	7.3	14.4	41.1	25.4	7.9	0.5	100.0



問3 あなたの住んでいる行政区はどこですか。（1つに○）

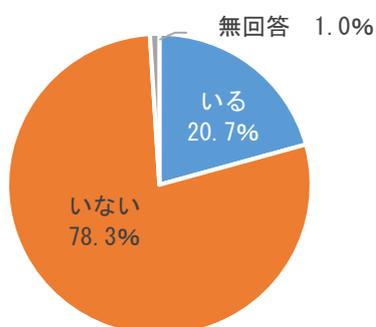
（単位：人、％）



回答項目	結果	割合
1. 赤坂西野区	70	18.3
2. 西山区	54	14.1
3. 赤坂中野区	66	17.3
4. 赤坂東野・石井草区	72	18.8
5. 富田区	37	9.7
6. 渡瀬区	48	12.6
7. 青生野区	31	8.1
居住地域無回答	4	1.1
計	382	100.0

回答者の居住地区で最も多かったのが、赤坂東野・石井草地区の18.8%で、次に赤坂西野区の18.3%となりました。

問4 あなたの同居しているご家族に、小学校就学前、小学生、中学生のいずれかのお子様はいらっしゃいますか。(1つに○)



(単位：人、%)

回答項目	結果	割合
1. いる	79	20.7
2. いない	299	78.3
無回答	4	1.0
計	382	100.0

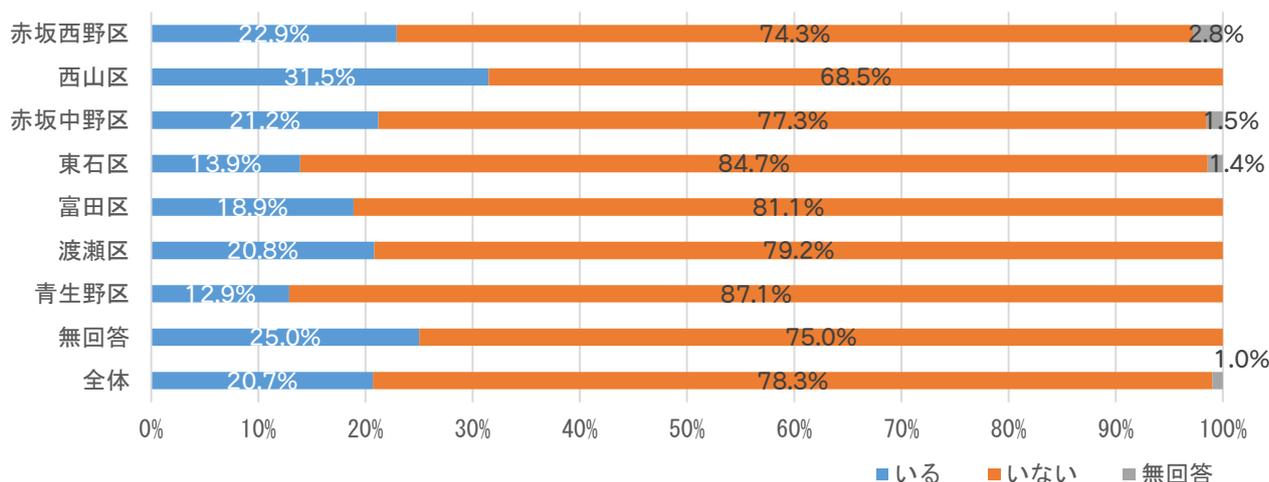
回答者の家族構成のうち、中学生以下の子どもとの同居状況については、「いる」と答えた方が20.7%、「いない」と答えた方が78.3%、無回答が1.0%となり、中学生以下の子どもが「いる」世帯は、全体の2割に止まりました。

居住地区でみると、同居の中学生以下の子どもいる割合が最も高かった地区は、西山区の31.5%で、最も低かったのが青生野区の12.9%でした。

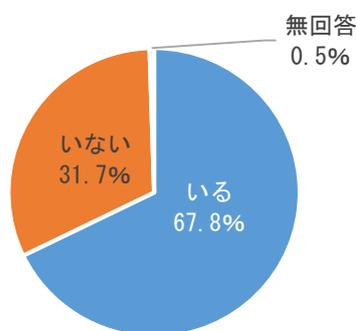
■問3と問4のクロス集計（回答者の居住地区ごとの中学生以下との同居状況）

(単位：人、%)

同居状況 居住地区	結 果				割 合			
	いる	いない	無回答	計	いる	いない	無回答	計
1. 赤坂西野区	16	52	2	70	22.9	74.3	2.8	100.0
2. 西山区	17	37	0	54	31.5	68.5	0.0	100.0
3. 赤坂中野区	14	51	1	66	21.2	77.3	1.5	100.0
4. 赤坂東野・石井草区	10	61	1	72	13.9	84.7	1.4	100.0
5. 富田区	7	30	0	37	18.9	81.1	0.0	100.0
6. 渡瀬区	10	38	0	48	20.8	79.2	0.0	100.0
7. 青生野区	4	27	0	31	12.9	87.1	0.0	100.0
無回答	1	3	0	4	25.0	75.0	0.0	100.0
全 体	79	299	4	382	20.7	78.3	1.0	100.0



問5 あなたの同居しているご家族に、65歳以上の方はいらっしゃいますか。
(1つに○)



(単位：人、%)

回答項目	結果	割合
1. いる	259	67.8
2. いない	121	31.7
無回答	2	0.5
計	382	100.0

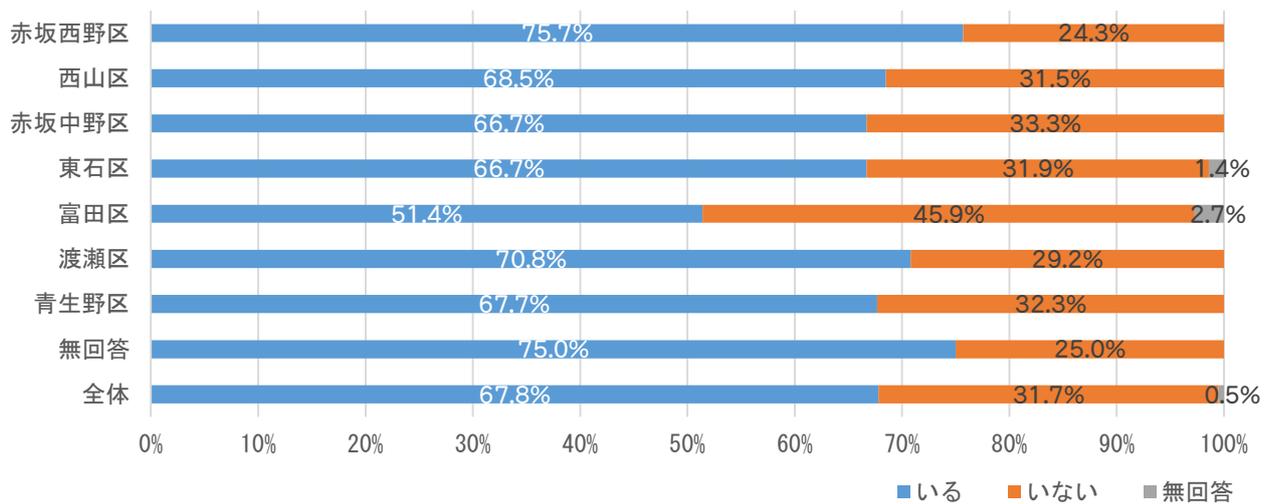
回答者の家族構成のうち、65歳以上の方との同居状況については、「いる」と答えた方が67.8%、「いない」と答えた方が31.7%、無回答が0.5%となり、65歳以上の方が「いる」世帯は、全体のおよそ7割に上りました。

居住地区でみると、同居の65歳以上の方がいる割合が最も多かった地区は赤坂西野区の75.7%で、最も低かったのが富田区の51.4%でした。

■問3と問5のクロス集計（回答者の居住地区ごとの65歳以上との同居状況）

(単位：人、%)

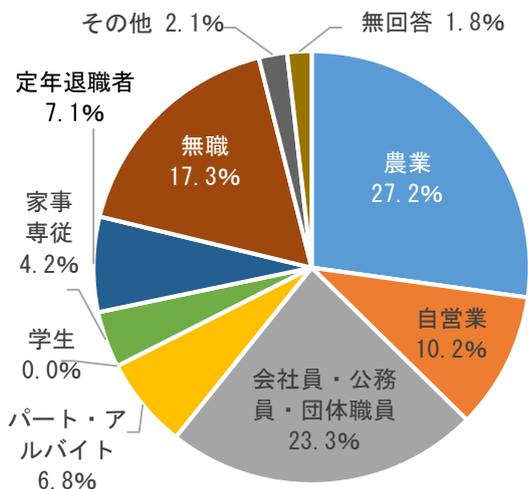
同居状況 居住地区	結果				割合			
	いる	いない	無回答	計	いる	いない	無回答	計
1. 赤坂西野区	53	17	0	70	75.7	24.3	0.0	100.0
2. 西山区	37	17	0	54	68.5	31.5	0.0	100.0
3. 赤坂中野区	44	22	0	66	66.7	33.3	0.0	100.0
4. 赤坂東野・石井草区	48	23	1	72	66.7	31.9	1.4	100.0
5. 富田区	19	17	1	37	51.4	45.9	2.7	100.0
6. 渡瀬区	34	14	0	48	70.8	29.2	0.0	100.0
7. 青生野区	21	10	0	31	67.7	32.3	0.0	100.0
無回答	3	1	0	4	75.0	25.0	0.0	100.0
全体	259	121	2	382	67.8	31.7	0.5	100.0



問6

あなたのご職業は、次のどれにあてはまりますか。(1つに○)

(単位：人、%)



回答項目	結果	割合
1. 農業	104	27.2
2. 自営業	39	10.2
3. 会社員・公務員・団体職員	89	23.3
4. パート・アルバイト	26	6.8
5. 学生	0	0.0
6. 家事専従	16	4.2
7. 定年退職者	27	7.1
8. 無職	66	17.3
9. その他	8	2.1
無回答	7	1.8
計	382	100.0

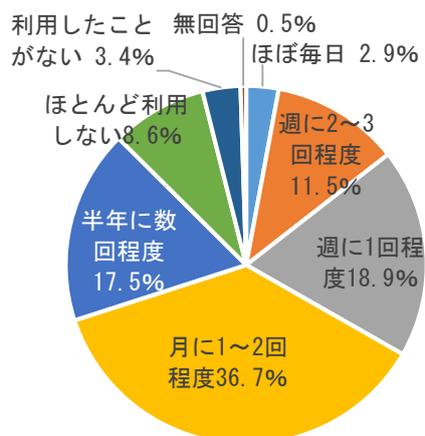
回答者の職業で最も多かったのが「農業」の27.2%で、次に「会社員・公務員・団体職員」の23.3%、「無職」の17.3%の順になりました。

その他では、次のとおりの記入がありました。

- ・山林 <<60代女性>>
- ・たんぼぼの家作業員 <<60代男性>>
- ・大工 <<60代男性>>

問7 あなたは、どれくらいの頻度で手まめ館を利用していますか。(1つに○)

(単位：人、%)



項目	結果	割合
1. ほぼ毎日	11	2.9
2. 週に2~3回程度	44	11.5
3. 週に1回程度	72	18.9
4. 月に1~2回程度	140	36.7
5. 半年に数回程度	67	17.5
6. ほとんど利用しない	33	8.6
7. 利用したことがない	13	3.4
無回答	2	0.5
計	382	100.0

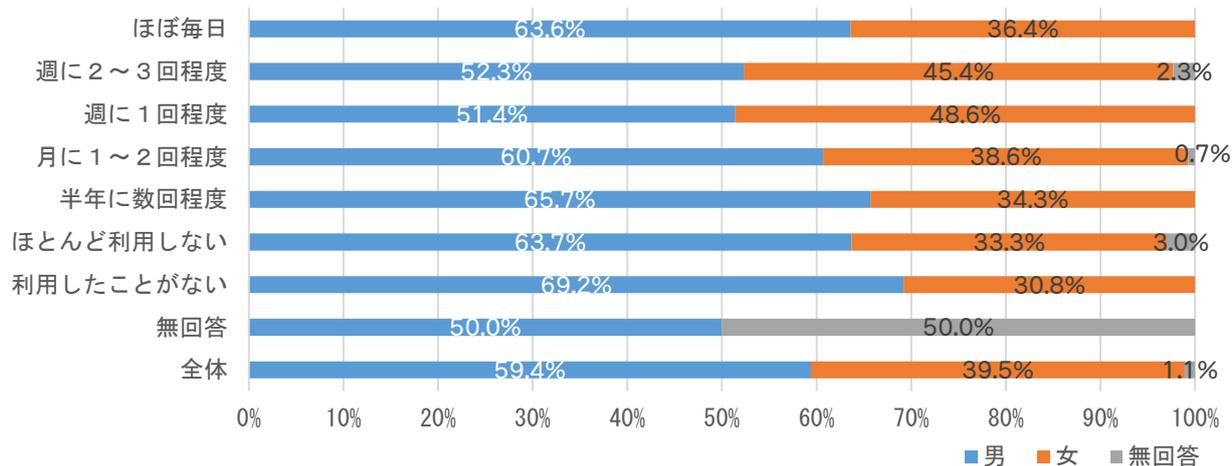
手まめ館の利用頻度で最も多かったのが、月に1~2回程度の36.7%で、週に1回以上利用する方の割合は、33.3%（ほぼ毎日2.9%、週に2~3回程度11.5%、週に1回程度18.9%の計）でした。

次に、性別ごとにみますと、男性の割合が最も多かった利用頻度は、「利用したことがない」の69.2%で、女性で最も多かったのは「週に1回程度」の48.6%でした。

■問1と問7のクロス集計（回答者の性別ごとの手まめ館の利用頻度）

(単位：人、%)

利用頻度	性別		結果				割合			
	男	女	無回答	計	男	女	無回答	計		
1. ほぼ毎日	7	4	0	11	63.6	36.4	0.0	100.0		
2. 週に2~3回程度	23	20	1	44	52.3	45.4	2.3	100.0		
3. 週に1回程度	37	35	0	72	51.4	48.6	0.0	100.0		
4. 月に1~2回程度	85	54	1	140	60.7	38.6	0.7	100.0		
5. 半年に数回程度	44	23	0	67	65.7	34.3	0.0	100.0		
6. ほとんど利用しない	21	11	1	33	63.7	33.3	3.0	100.0		
7. 利用したことがない	9	4	0	13	69.2	30.8	0.0	100.0		
無回答	1	0	1	2	50.0	0.0	50.0	100.0		
全体	227	151	4	382	59.4	39.5	1.1	100.0		

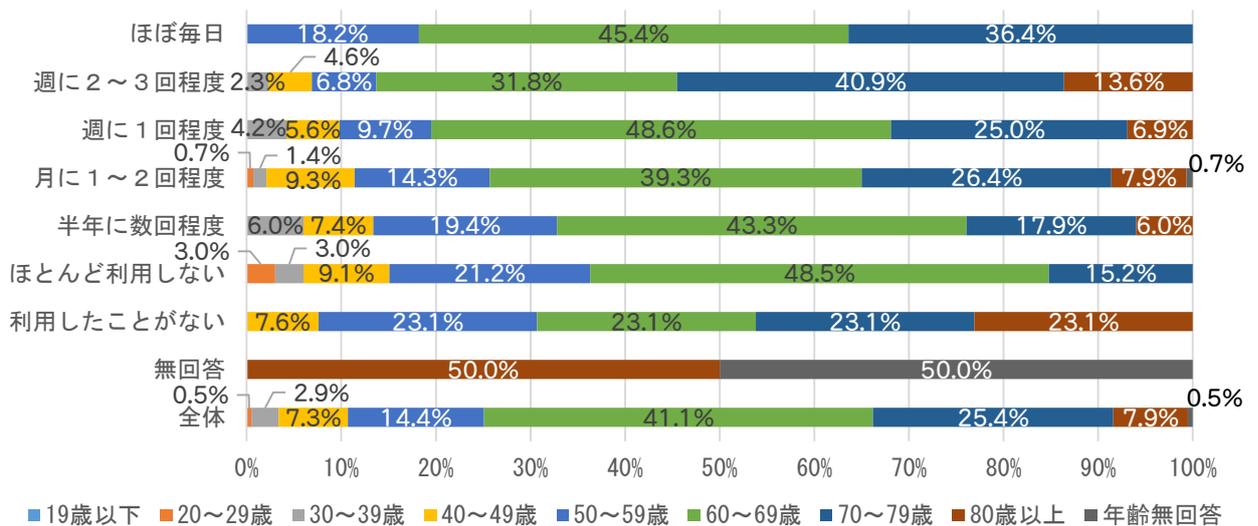


次に、年齢別にみますと、「週に2～3回程度」と「利用したことがない」を除き、いずれの利用頻度でも「60～69歳」が最も多くなりました。

■問2と問7のクロス集計（回答者の年齢ごとの手まめ館の利用頻度）

上段：調査結果（人）、下段：割合（%）

利用頻度	年齢									計
	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	年齢無回答	
1. ほぼ毎日	0	0	0	0	2	5	4	0	0	11
	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	45.4	36.4	0.0	0.0	100.0
2. 週に2～3回程度	0	0	1	2	3	14	18	6	0	44
	0.0	0.0	2.3	4.6	6.8	31.8	40.9	13.6	0.0	100.0
3. 週に1回程度	0	0	3	4	7	35	18	5	0	72
	0.0	0.0	4.2	5.6	9.7	48.6	25.0	6.9	0.0	100.0
4. 月に1～2回程度	0	1	2	13	20	55	37	11	1	140
	0.0	0.7	1.4	9.3	14.3	39.3	26.4	7.9	0.7	100.0
5. 半年に数回程度	0	0	4	5	13	29	12	4	0	67
	0.0	0.0	6.0	7.4	19.4	43.3	17.9	6.0	0.0	100.0
6. ほとんど利用しない	0	1	1	3	7	16	5	0	0	33
	0.0	3.0	3.0	9.1	21.2	48.5	15.2	0.0	0.0	100.0
7. 利用したことがない	0	0	0	1	3	3	3	3	0	13
	0.0	0.0	0.0	7.6	23.1	23.1	23.1	23.1	0.0	100.0
無回答	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0
全体	0	2	11	28	55	157	97	30	2	382
	0.0	0.5	2.9	7.3	14.4	41.1	25.4	7.9	0.5	100.0

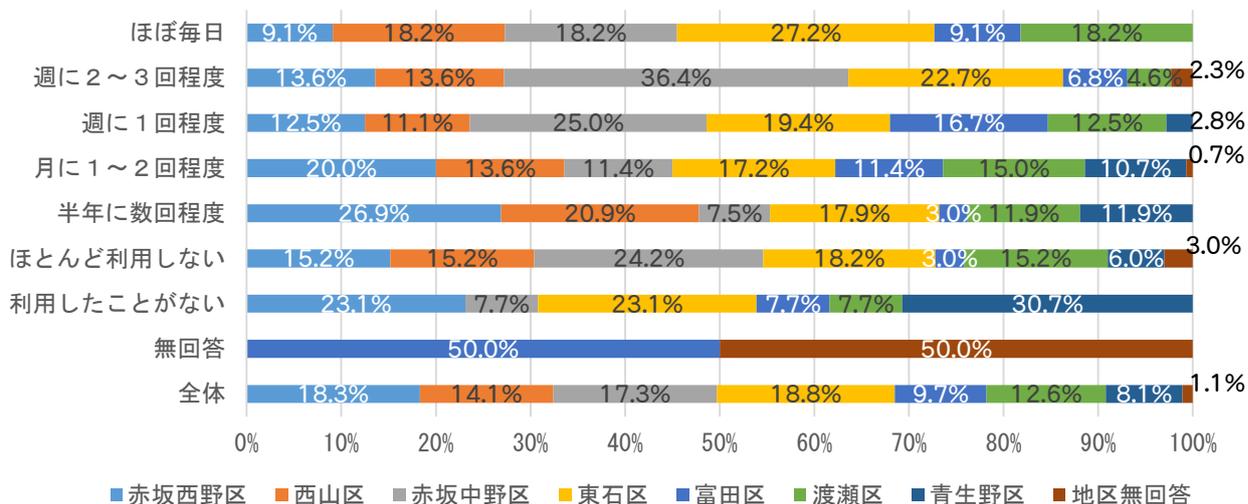


さらに、居住地区ごとにみますと、「ほぼ毎日」で最も多いのが赤坂東野・石井草区で27.2%、「週に2～3回程度」と「週に1回程度」で最も多いのが赤坂中野区でそれぞれ36.4%、25.0%、「月に1～2回程度」と「半年に数回程度」で最も多いのが赤坂西野区で、それぞれ20.0%、26.9%となりました。「ほとんど利用しない」では、赤坂中野区の24.2%、「利用したことがない」では青生野区の30.7%となりました。

■ 問3と問7のクロス集計（回答者の居住地区ごとの手まめ館の利用頻度）

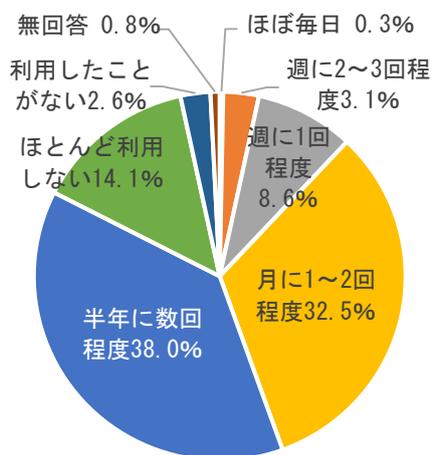
上段：結果（人）、下段：割合（%）

利用頻度	居住地区								計
	赤坂西野区	西山区	赤坂中野区	東石区	富田区	渡瀬区	青生野区	地区無回答	
1. ほぼ毎日	1	2	2	3	1	2	0	0	11
	9.1	18.2	18.2	27.2	9.1	18.2	0.0	0.0	100.0
2. 週に2～3回程度	6	6	16	10	3	2	0	1	44
	13.6	13.6	36.4	22.7	6.8	4.6	0.0	2.3	100.0
3. 週に1回程度	9	8	18	14	12	9	2	0	72
	12.5	11.1	25.0	19.4	16.7	12.5	2.8	0.0	100.0
4. 月に1～2回程度	28	19	16	24	16	21	15	1	140
	20.0	13.6	11.4	17.2	11.4	15.0	10.7	0.7	100.0
5. 半年に数回程度	18	14	5	12	2	8	8	0	67
	26.9	20.9	7.5	17.9	3.0	11.9	11.9	0.0	100.0
6. ほとんど利用しない	5	5	8	6	1	5	2	1	33
	15.2	15.2	24.2	18.2	3.0	15.2	6.0	3.0	100.0
7. 利用したことがない	3	0	1	3	1	1	4	0	13
	23.1	0.0	7.7	23.1	7.7	7.7	30.7	0.0	100.0
無回答	0	0	0	0	1	0	0	1	2
	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0
全 体	70	54	66	72	37	48	31	4	382
	18.3	14.1	17.3	18.8	9.7	12.6	8.1	1.1	100.0



問8 あなたは、どれくらいの頻度で「道の駅」（県内・県外を含む）を利用していますか。（1つに○）

（単位：人、％）



回答項目	結果	割合
1. ほぼ毎日	1	0.3
2. 週に2～3回程度	12	3.1
3. 週に1回程度	33	8.6
4. 月に1～2回程度	124	32.5
5. 半年に数回程度	145	38.0
6. ほとんど利用しない	54	14.1
7. 利用したことがない	10	2.6
無回答	3	0.8
計	382	100.0

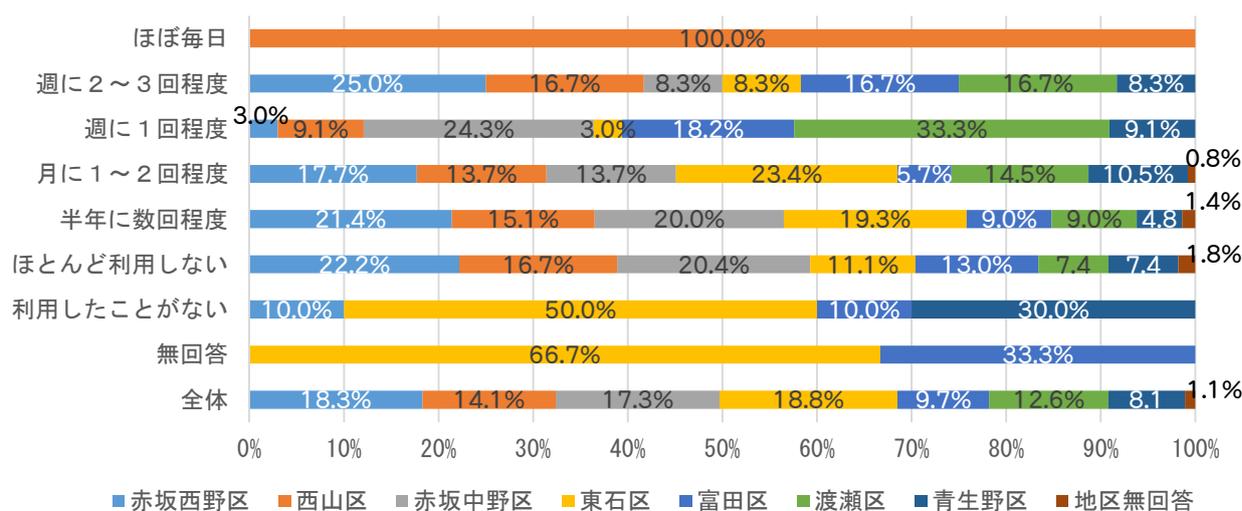
道の駅の利用頻度で最も多かったのは「半年に数回程度」の38.0%で、続いて「月に1～2回程度」の32.5%となりました。週1回以上の利用は12.0%（ほぼ毎日0.3%、週に2～3回程度3.1%、週に1回程度8.6%の計）でした。

居住地区別にみますと、「週2～3回程度」では赤坂西野区の25.0%、週に1回程度では渡瀬区の33.3%、「月に1～2回程度」では、赤坂東野・石井草区の23.4%、「半年に数回程度」と「ほとんど利用しない」では、赤坂西野区のそれぞれ21.4%、22.2%、「利用したことがない」では赤坂東野・石井草区で50.0%が最も多い回答となりました。

■問3と問8のクロス集計（回答者の居住地区ごとの道の駅の利用頻度）

上段：結果（人）、下段：割合（％）

利用頻度	居住地区								計
	赤坂西野区	西山区	赤坂中野区	東石区	富田区	渡瀬区	青生野区	地区無回答	
1. ほぼ毎日	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
2. 週に2～3回程度	3	2	1	1	2	2	1	0	12
	25.0	16.7	8.3	8.3	16.7	16.7	8.3	0.0	100.0
3. 週に1回程度	1	3	8	1	6	11	3	0	33
	3.0	9.1	24.3	3.0	18.2	33.3	9.1	0.0	100.0
4. 月に1～2回程度	22	17	17	29	7	18	13	1	124
	17.7	13.7	13.7	23.4	5.7	14.5	10.5	0.8	100.0
5. 半年に数回程度	31	22	29	28	13	13	7	2	145
	21.4	15.1	20.0	19.3	9.0	9.0	4.8	1.4	100.0
6. ほとんど利用しない	12	9	11	6	7	4	4	1	54
	22.2	16.7	20.4	11.1	13.0	7.4	7.4	1.8	100.0
7. 利用したことがない	1	0	0	5	1	0	3	0	10
	10.0	0.0	0.0	50.0	10.0	0.0	30.0	0.0	100.0
無回答	0	0	0	2	1	0	0	0	3
	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0
全 体	70	54	66	72	37	48	31	4	382
	18.3	14.1	17.3	18.8	9.7	12.6	8.1	.1	100.0



2 村に「中心地域活性化拠点施設」を整備する場合についてお伺いします。

問9 「村民のため」、「子育て世代のため」、「道路利用者又は村外からの来訪者のため」の3つの視点から、あなたが「中心地域活性化拠点施設」に必要と思われる番号を【選択肢】の中から3つ選んでください。また、【選択肢】にない施設・機能があれば、その他の施設の欄に施設・機能などを記入してください。[複数回答]

(対象)

1. 村民のために必要な施設・機能
2. 子育て世代のために必要な施設・機能
3. 道路利用者又は村外からの来訪者（観光など）のために必要な施設・機能

(選択肢)

必要な施設・機能（取組み）	イメージ
1. 農産物直売	農産物、工芸品等の販売
2. 食品加工施設	大豆製品などの加工品の製造
3. 物販販売	日用食品、生活用品等の販売
4. 飲食施設	食堂・レストラン、フードコート
5. 喫茶施設	コーヒー等の飲料を提供
6. ミルクプラント	牛乳や加工品の6次製品化施設
7. 地域・観光情報を発信する機能	観光やイベント情報提供
8. 道路・観光マップ・管内図等の掲示	目的地までの案内等の情報提供
9. 災害時の避難施設	災害時に避難場所等に活用できる施設
10. 防災のための機能	防災のために必要な機能を整備
11. 放課後児童クラブ	小学校放課後に児童を預かる施設
12. 公園・広場	遊具等を設置し子どもが遊べる施設
13. 授乳室・おむつ替え施設	子どもを持つ保護者が安心して利用できる施設
14. 室内遊び場	室内遊具や児童書を設置し、子どもが遊べる施設
15. 研修室	村民や農産物等生産者の研修活動等に多目的に利用可能な施設
16. 多目的交流広場	屋外でイベント等が開催できる空間や多様な世代が休憩することができる施設
17. テナント又はレンタルスペース	起業者支援の為に一時的に利用できる施設
18. 体験型農園	果実の摘み取り体験などができる体験農園
19. 特にない	

対象別にみますと、村民のために必要な施設・機能では、「農産物の直売（47.4%）」や「物販販売（37.4%）」など、購買分野を充実してはどうかと考える方が多い一方、「災害時の避難施設（27.2%）」や「防災のための機能（19.6%）」があったほうが良いと考える方もいました。

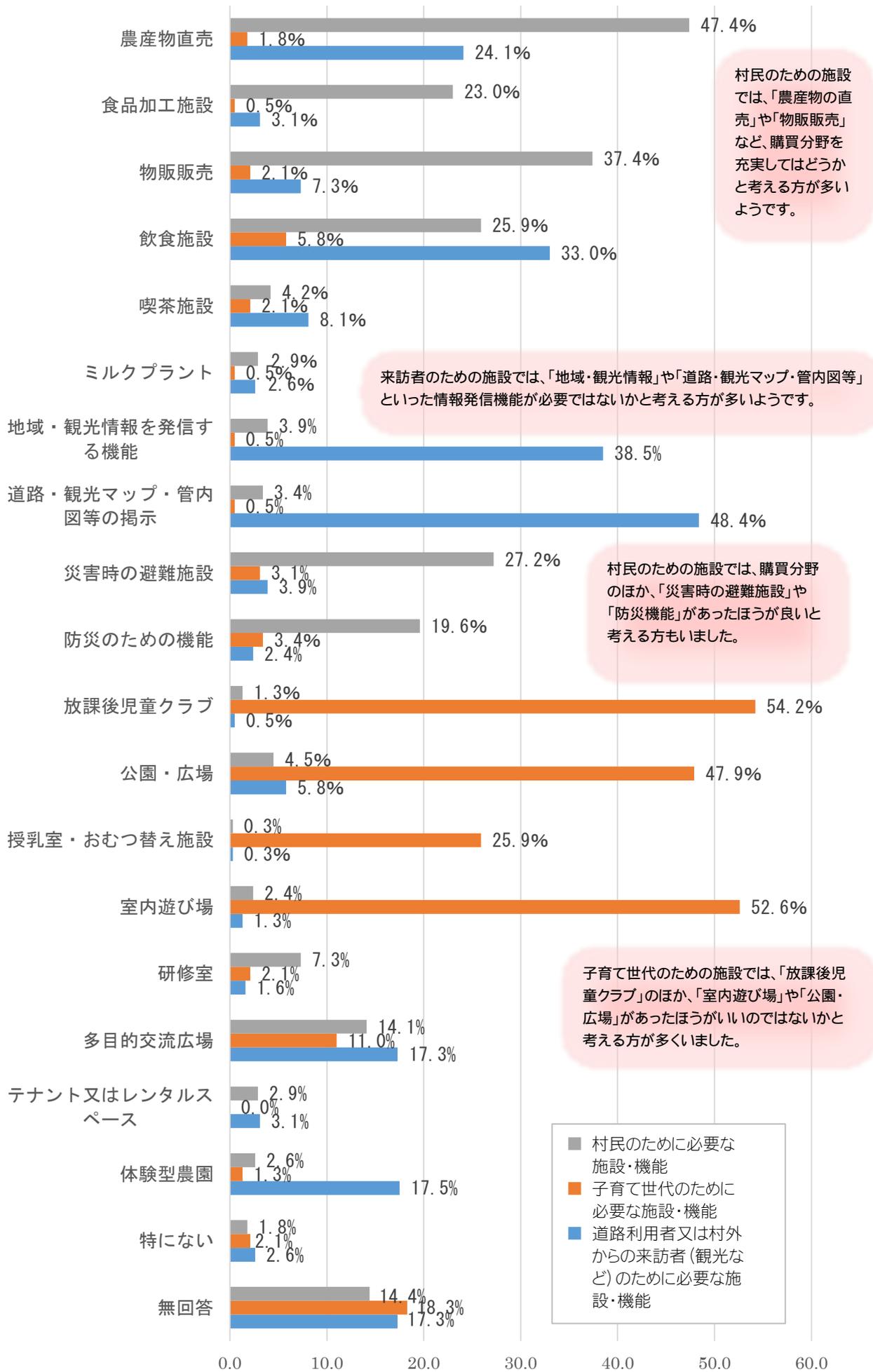
また、子育て世代のために必要な施設・機能では、「放課後児童クラブ（54.2%）」が最も

多く、そのほかにも「室内遊び場（52.6%）」や「公園・広場（47.9%）」があったほうがいいのではないかと考える方が多くを占めました。

さらに、道路利用者又は村外からの来訪者（観光など）のための施設・機能では、「道路・観光マップ・管内図等の掲示（48.4%）」や「地域・観光情報を発信する機能（38.5%）」といった情報発信機能が必要ではないかと考える方が多くいました。

（単位：人、%）

施設・機能	対象別	結果			割合		
		村民	子育て	道路	村民	子育て	道路
1. 農産物直売		181	7	92	47.4	1.8	24.1
2. 食品加工施設		88	2	12	23.0	0.5	3.1
3. 物販販売		143	8	28	37.4	2.1	7.3
4. 飲食施設		99	22	126	25.9	5.8	33.0
5. 喫茶施設		16	8	31	4.2	2.1	8.1
6. ミルクプラント		11	2	10	2.9	0.5	2.6
7. 地域・観光情報を発信する機能		15	2	147	3.9	0.5	38.5
8. 道路・観光マップ・管内図等の掲示		13	2	185	3.4	0.5	48.4
9. 災害時の避難施設		104	12	15	27.2	3.1	3.9
10. 防災のための機能		75	13	9	19.6	3.4	2.4
11. 放課後児童クラブ		5	207	2	1.3	54.2	0.5
12. 公園・広場		17	183	22	4.5	47.9	5.8
13. 授乳室・おむつ替え施設		1	99	1	0.3	25.9	0.3
14. 室内遊び場		9	201	5	2.4	52.6	1.3
15. 研修室		28	8	6	7.3	2.1	1.6
16. 多目的交流広場		54	42	66	14.1	11.0	17.3
17. テナント又はレンタルスペース		11	0	12	2.9	0.0	3.1
18. 体験農園		10	5	67	2.6	1.3	17.5
19. 特にない		7	8	10	1.8	2.1	2.6
無回答		55	70	66	14.4	18.3	17.3



その他の欄に記載があった内容は、次のとおりです。

【村民のために必要な施設・機能】

- ・日用品が買える場所 << 80代男性 >>
- ・トイレはとてもきれいに整備されて気持ちがいいです << 80代男性 >>
- ・パターゴルフ場 << 60代女性 >>
- ・宿泊施設 << 70代男性 >>
- ・道路の整備 << 50代男性 >>
- ・山王の里 << 60代女性 >>
- ・宴会のできる入浴施設 << 50代男性 >>
- ・子どもが習い事できるような所 << 30代女性 >>
- ・大手企業誘致、B級グルメの企画 << 40代男性 >>
- ・パークゴルフ場 << 60代男性 >>
- ・多目的交流室 << 60代女性 >>
- ・温泉利用してのプール（足の不自由な方の利用のため） << 60代女性 >>
- ・コンビニ << 70代女性 >>
- ・働く場所 << 年齢・性別ともに無回答 >>
- ・ひだまり荘、さぎり荘 << 60代男性 >>
- ・アトリエ会場 << 60代女性 >>
- ・鹿角平までの道を広くする << 30代男性 >>
- ・川沿いの避難施設ではなく安全地帯の施設を設置する << 60代女性 >>
- ・ギャラリー << 70代男性 >>

【子育て世代のために必要な施設・機能】

- ・子どもが遊べるアトラクションのある飲食施設 << 30代男性 >>
- ・スクールバスに村民を乗せる << 40代男性 >>
- ・こどもセンターを村の中央へ << 40代男性 >>
- ・〇〇教室や塾など << 年齢・性別ともに無回答 >>
- ・通学のための近隣町村への交通手段 << 60代男性 >>
- ・子ども、親、元気な高齢者が集える場 << 40代女性 >>
- ・村外の塾に行かず、村の中心で学べる場所があれば良い << 60代女性 >>

【道路利用者又は村外からの来訪者（観光など）のために必要な施設・機能】

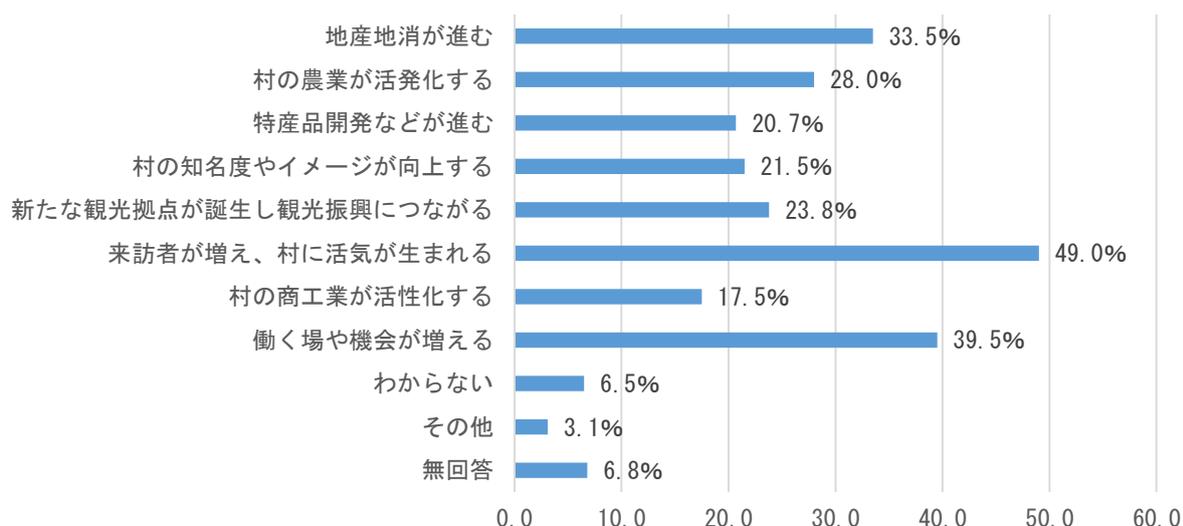
- ・温泉付き宿泊施設 << 50代女性 >>
- ・パターゴルフ場 << 60代女性 >>
- ・鹿角平 << 60代女性 >>
- ・宿泊施設 << 60代女性、70代男性、60代男性 >>
- ・村の工芸品はなんですか << 60代男性 >>
- ・各地域にトイレ << 30代男性 >>
- ・長く見に来てもらうイベント << 60代男性 >>
- ・コンビニ、4輪バギーコース << 40代男性 >>
- ・街路灯 << 60代男性 >>
- ・いらないと思う << 70代女性 >>
- ・宿泊施設、景色を良くして展望スペース << 年齢・性別ともに無回答 >>

- ・愛想のいい定員（村の鏡だ） ≪ 60代女性 ≫
- ・滝への道を聞きに来る人が多い ≪ 50代女性 ≫
- ・身近に交通機関がないため不便 ≪ 50代女性 ≫
- ・どれも3つでは選びきれないです ≪ 60代女性 ≫
- ・鹿角平までの道を広くする ≪ 30代男性 ≫
- ・道路が狭いのでセンターラインを書いた方が良い ≪ 60代女性 ≫

問10 村に「中心地域活性化拠点施設」を整備する場合、村の産業や地域に、どのような効果をもたらすことを最も期待したいですか。（あてはまる番号に3つまで○）[複数回答]

（単位：人、％）

回答項目	結果	割合
1. 地産地消（村で生産された農産物などを村で消費すること）が進む	128	33.5
2. 村の農業が活発化する	107	28.0
3. 特産品開発などが進む	79	20.7
4. 村の知名度やイメージが向上する	82	21.5
5. 新たな観光拠点が誕生し、観光振興につながる	91	23.8
6. 来訪者が増え、村に活気が生まれる	187	49.0
7. 村の商工業が活発化する	67	17.5
8. 働く場や機会が増える	151	39.5
9. わからない	25	6.5
10. その他	12	3.1
無回答	26	6.8



村の産業や地域への効果に期待するものとして最も多かったのが、「来訪者が増え、村に活気が生まれる（49.0%）」で、回答者の半数の方が、拠点施設を整備することで活気が生まれると期待しています。

さらに、「働く場や機会が増える（39.5%）」や「地産地消が進む（33.5%）」といった効果への期待も寄せる方が多くいました。

その他の欄に記載があった内容は、次のとおりです。

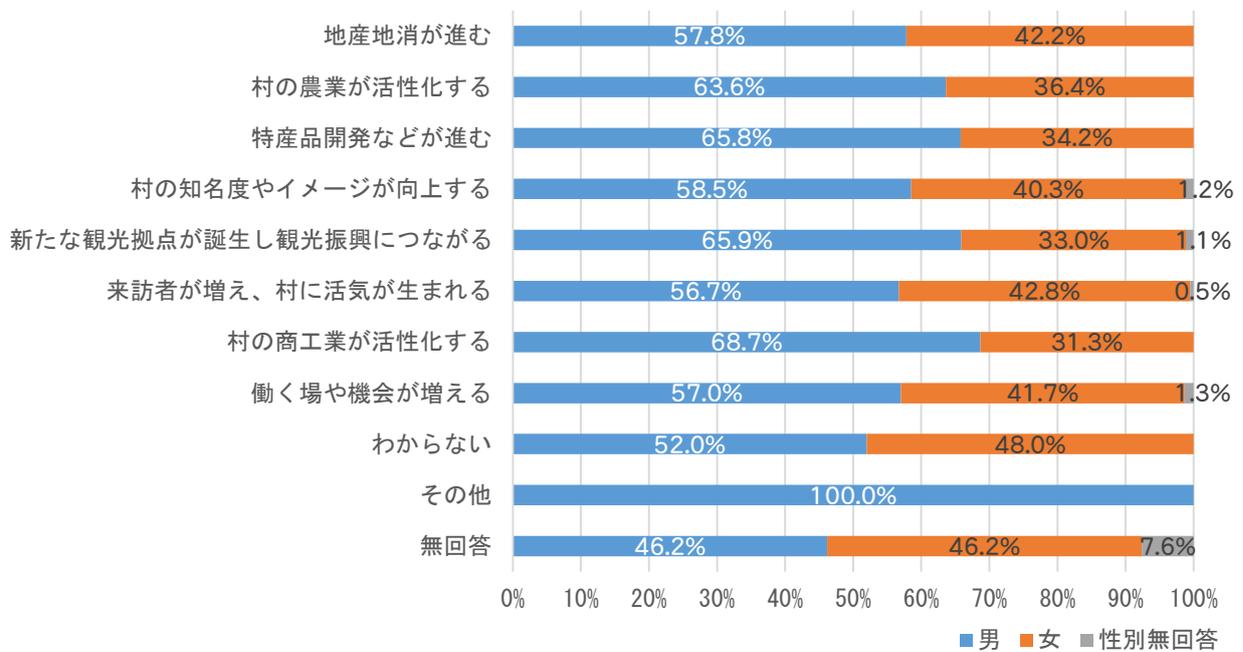
- ・湯の田を利用して温水プールを作るのはどうか? <<60代男性>>
- ・借金が多くなるので実施しない方向。 <<70代男性>>
- ・なにかを新しく作るより「今ある物」をきれいにしたり、整備して欲しい。
<<30代男性>>
- ・外国人来訪、Uターン、Iターンのきっかけとなること。 <<40代男性>>
- ・農業と商工業を合わせ産業の6次化を進める。 <<50代男性>>
- ・何もかわらない。 <<50代男性>>
- ・温泉地周辺に多目的広場を確保。村民が一堂に会する施設を、集約型事業を望みます。
<<40代男性>>
- ・なし <<60代男性>>
- ・鹿角平をお花畑にする。道路の両側に桜を植える。 <<60代女性>>
- ・現状では期待できない <<70代男性>>
- ・中心地に人が集まり、活性化する。 <<40代男性>>
- ・特色のある村づくりが出せるように。 <<60代男性>>
- ・効果は少ない。 <<70代男性>>

次に、村の産業や地域への効果に最も期待するものを性別ごとに見てみますと、男性で最も割合が多かったのが「村の商工業が活性化する（68.7%）」で、女性で最も多かったのが、「来訪者が増え、村に活気が生まれる（42.8%）」でした。（「わからない」および「その他」を除く。）

■問1と問10のクロス集計（回答者の性別ごとの拠点施設に期待する効果<産業・地域>）

（単位：人、%）

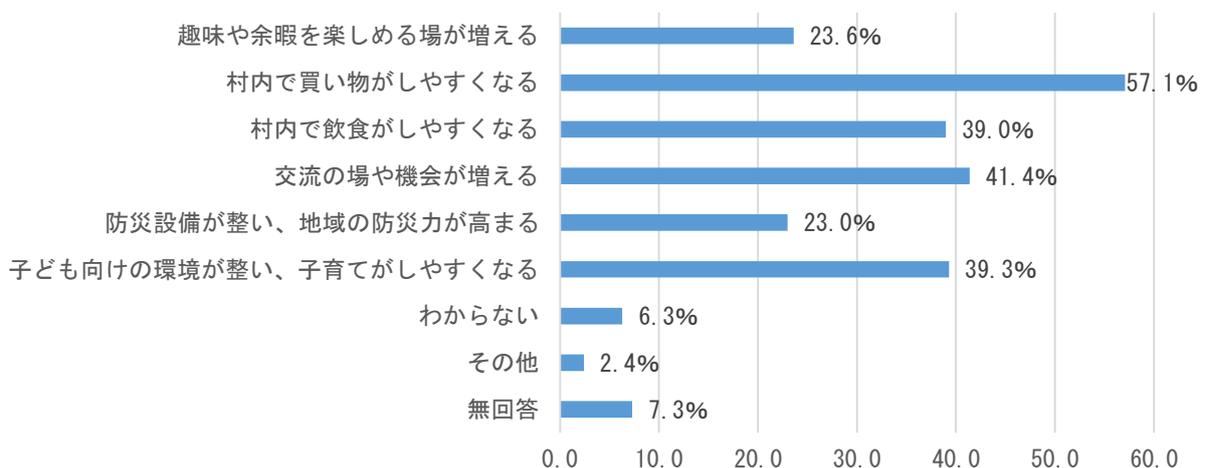
回答項目	区分	結 果				割 合			
		男	女	無回答	計	男	女	無回答	計
1. 地産地消が進む		74	54	0	128	57.8	42.2	0.0	100.0
2. 村の農業が活性化する		68	39	0	107	63.6	36.4	0.0	100.0
3. 特産品開発などが進む		52	27	0	79	65.8	34.2	0.0	100.0
4. 村の知名度やイメージ向上する		48	33	1	82	58.5	40.3	1.2	100.0
5. 新たな観光拠点が誕生し観光振興につながる		60	30	1	91	65.9	33.0	1.1	100.0
6. 来訪者が増え、村に活気が生まれる		106	80	1	187	56.7	42.8	0.5	100.0
7. 村の商工業が活性化する		46	21	0	67	68.7	31.3	0.0	100.0
8. 働く場や機会が増える		86	63	2	151	57.0	41.7	1.3	100.0
9. わからない		13	12	0	25	52.0	48.0	0.0	100.0
10. その他		12	0	0	12	100.0	0.0	0.0	100.0
無回答		12	12	2	26	46.2	46.2	7.6	100.0



問11 村に「中心地域活性化拠点施設」を整備する場合、日々の暮らしなどに、どのような効果をもたらすことを最も期待したいですか。(あてはまる番号に3つまで○) [複数回答]

(単位：人、%)

回答項目	結果	割合
1. 趣味や余暇を楽しめる場が増える	90	23.6
2. 村内で買い物がしやすくなる	218	57.1
3. 村内で飲食がしやすくなる	149	39.0
4. 交流の場や機会が増える	158	41.4
5. 防災設備が整い、地域の防災力が高まる	88	23.0
6. 子ども向けの環境が整い、子育てがしやすくなる	150	39.3
7. わからない	24	6.3
8. その他	9	2.4
無回答	28	7.3



日々の暮らしなどへの効果に最も期待するものとして多かったのが、「村内で買い物がしやすくなる（57.1%）」ことで、次に「交流の場や機会が増える（41.4%）」のではないかと考える方が多くいました。

その他の欄に記載があった内容は、次のとおりです。

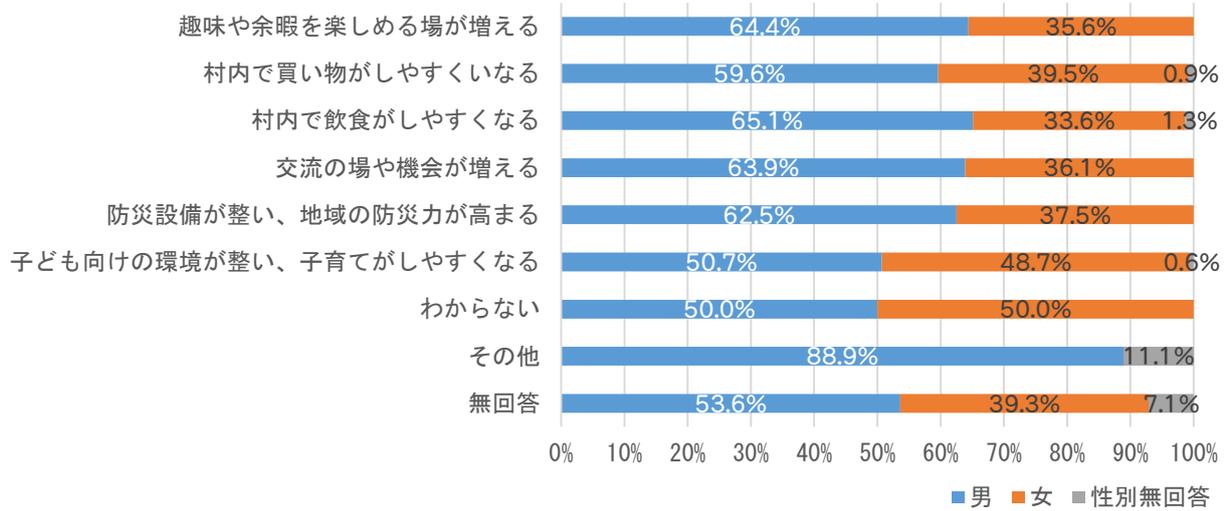
- ・村外に行かないように品物を多数（できるだけ安く）そろえる。 《60代男性》
- ・今のままで良い。 《70代男性》
- ・西山地区には店がありません。 《60代男性》
- ・たぶんあまり今と変わらないと思う。 《30代男性》
- ・人事の交流。 《70代男性》
- ・村内にいながら世界に目を向けられる機会をより多く創出する効果。 《40代男性》
- ・何も期待できない。 《50代男性》
- ・食物の味の研究。 《80代男性》
- ・人口の増加、若い人が定住できる環境づくり。 《年齢・性別ともに無回答》
- ・コンビニがほしい。 《50代男性》
- ・なし 《60代男性》
- ・暮らしの効果、期待は少ない。 《70代男性》

次に、日々の暮らしへの効果に最も期待するものを性別ごとに見てみますと、男性の割合が最も多かったのが、「村内で飲食がしやすくなる（65.1%）」で、女性で最も多かったのが「子ども向けの環境が整い、子育てがしやすくなる（48.7%）」でした。（「わからない」および「その他」を除く。）

■問1と問11のクロス集計（回答者の性別ごとの拠点施設に期待する効果＜日々の暮らし＞）

（単位：人、%）

回答項目	区分		結果				割合			
	男	女	無回答	計	男	女	無回答	計		
1. 趣味や余暇を楽しめる場が増える	58	32	0	90	64.4	35.6	0.0	100.0		
2. 村内で買い物がしやすくなる	130	86	2	218	59.6	39.5	0.9	100.0		
3. 村内で飲食がしやすくなる	97	50	2	149	65.1	33.6	1.3	100.0		
4. 交流の場や機会が増える	101	57	0	158	63.9	36.1	0.0	100.0		
5. 防災設備が整い、地域の防災力が高まる	55	33	0	88	62.5	37.5	0.0	100.0		
6. 子ども向けの環境が整い、子育てがしやすくなる	76	73	1	150	50.7	48.7	0.6	100.0		
7. わからない	12	12	0	24	50.0	50.0	0.0	100.0		
8. その他	8	0	1	9	88.9	0.0	11.1	100.0		
無回答	15	11	2	28	53.6	39.3	7.1	100.0		

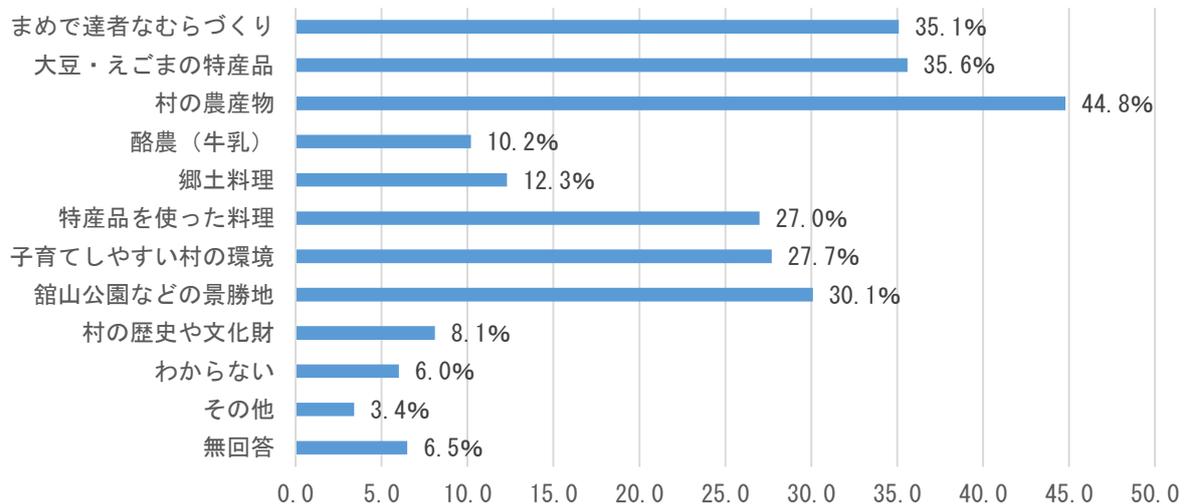


問12

村にある資源などで、次のうち、どれを生かすと鮫川村の個性、鮫川村らしさのある「中心地域活性化拠点施設」になると思いますか。(あてはまる番号に3つまで○) [複数回答]

(単位：人、%)

回答項目	結果	割合
1. まめで達者なむらづくり	134	35.1
2. 大豆・えごまの特産品	136	35.6
3. 村の農産物	171	44.8
4. 酪農（牛乳）	39	10.2
5. 郷土料理	47	12.3
6. 特産品を使った料理	103	27.0
7. 子育てしやすい村の環境	106	27.7
8. 館山公園などの景勝地	115	30.1
9. 村の歴史や文化財	31	8.1
10. わからない	23	6.0
11. その他	13	3.4
無回答	25	6.5



拠点施設に生かすべき鮫川村らしさで最も多かったのが、「村の農産物（44.8%）」で、次に「大豆・えごまの特産品（35.6%）」、「まめで達者なむらづくり（35.1%）」となりました。これらのことから、これまでの村づくりを続けていくことが、鮫川村らしさになってよいと考えられる方が多くいると考えられます。

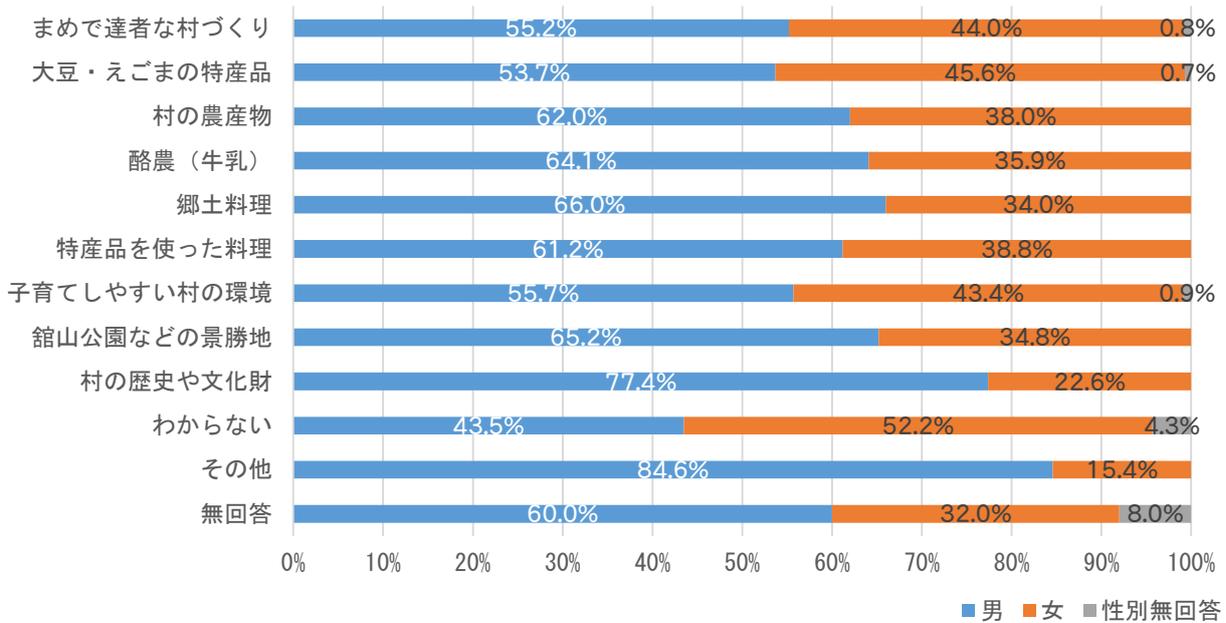
その他の欄に記載があった内容は、次のとおりです。

- ・荒地を増やさない。 <<60代女性>>
- ・鹿角平などのキャンプ場が良い。(孫達の話) <<80代男性>>
- ・本村加工品 <<60代男性>>
- ・子育てしやすい村の環境はどこにも負けるな。 <<60代男性>>
- ・遊び(スポーツ) → 温泉 → 買い物ができる流れ。 <<60代男性>>
- ・村には景観がうつくしい場所がある。生かされる方向で考慮。 <<60代女性>>
- ・清らかな水流の使い方。 <<60代男性>>
- ・各地域の観光資源を再PR。 <<30代男性>>
- ・自然 <<40代男性>>
- ・まずは若者が村外に出ず、村内で暮らす魅力的な住宅、低家賃。 <<40代男性>>
- ・農道、林道等の整備。 <<60代男性>>
- ・なし <<60代男性>>
- ・鹿角平の活用。 <<60代女性>>
- ・若者の意見が反映しやすい村のイメージアップ。 <<40代男性>>

次に、拠点施設に生かすべき鮫川村らしさを性別ごとにみますと、男性の割合が最も多かったのが、「村の歴史や文化財（77.4%）」で、女性で最も多かったのが、「大豆・えごまの特産品（45.6%）」になりました。（「わからない」および「その他」を除く。）

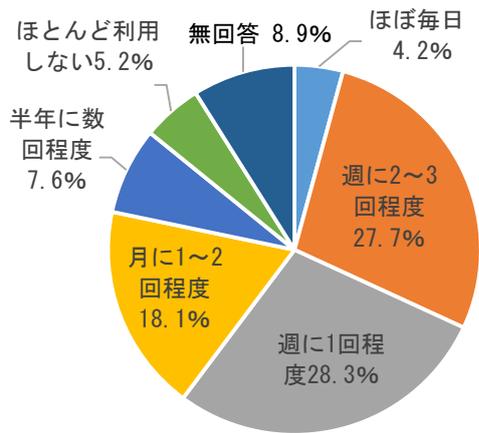
■問1と問12のクロス集計（回答者の性別ごとの拠点施設に生かすべきと考える鮫川村らしさ）
(単位：人、%)

回答項目	性別		結果				割合			
	男	女	無回答	計	男	女	無回答	計		
1. まめで達者な村づくり	74	59	1	134	55.2	44.0	0.8	100.0		
2. 大豆・えごまの特産品	73	62	1	136	53.7	45.6	0.7	100.0		
3. 村の農産物	106	65	0	171	62.0	38.0	0.0	100.0		
4. 酪農(牛乳)	25	14	0	39	64.1	35.9	0.0	100.0		
5. 郷土料理	31	16	0	47	66.0	34.0	0.0	100.0		
6. 特産品を使った料理	63	40	0	103	61.2	38.8	0.0	100.0		
7. 子育てしやすい村の環境	59	46	1	106	55.7	43.4	0.9	100.0		
8. 館山公園などの景勝地	75	40	0	115	65.2	34.8	0.0	100.0		
9. 村の歴史や文化財	24	7	0	31	77.4	22.6	0.0	100.0		
10. わからない	10	12	1	23	43.5	52.2	4.3	100.0		
11. その他	11	2	0	13	84.6	15.4	0.0	100.0		
無回答	15	8	2	25	60.0	32.0	8.0	100.0		



問13 あなたが問9でお答えいただいた「中心地域活性化拠点施設」に必要なと思う施設・機能が整備された場合、あなたはどの程度利用したいと思いますか。（あてはまる番号1つに○）

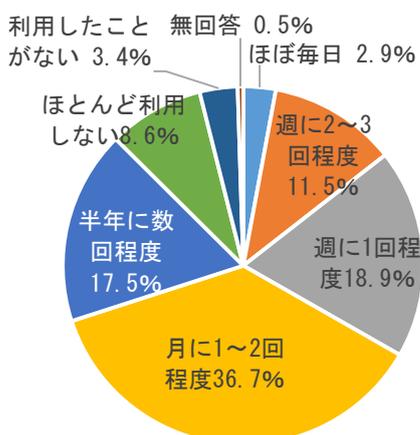
（単位：人、％）



回答項目	結果	割合
1. ほぼ毎日	16	4.2
2. 週に2～3回程度	106	27.7
3. 週に1回程度	108	28.3
4. 月に1～2回程度	69	18.1
5. 半年に数回程度	29	7.6
6. ほとんど利用しない	20	5.2
無回答	34	8.9
計	382	100.0

拠点施設を整備することで・・・

(再掲) 問7



項目	結果	割合
1. ほぼ毎日	11	2.9
2. 週に2～3回程度	44	11.5
3. 週に1回程度	72	18.9
4. 月に1～2回程度	140	36.7
5. 半年に数回程度	67	17.5
6. ほとんど利用しない	33	8.6
7. 利用したことがない	13	3.4
無回答	2	0.5
計	382	100.0

中心地域活性化拠点施設に問9の機能等を整備する場合の利用頻度では最も多かったのが「週に1回程度」の28.3%で、次に「週に2～3回程度」の27.7%となりました。

先の問7（現在の手まめ館の利用頻度）と比較してみると、

ほぼ毎日	11人（2.9%）	→	16人（4.2%）	5人（1.3%）の増
週に2～3回程度	44人（11.5%）	→	106人（27.7%）	62人（16.2%）の増
週に1回程度	72人（18.9%）	→	108人（28.3%）	36人（9.4%）の増
月に1～2回程度	140人（36.7%）	→	69人（18.1%）	71人（18.6%）の減
半年に数回程度	67人（17.5%）	→	29人（7.6%）	38人（9.9%）の減
ほとんど利用しない	33人（8.6%）	→	20人（5.2%）	13人（3.4%）の減

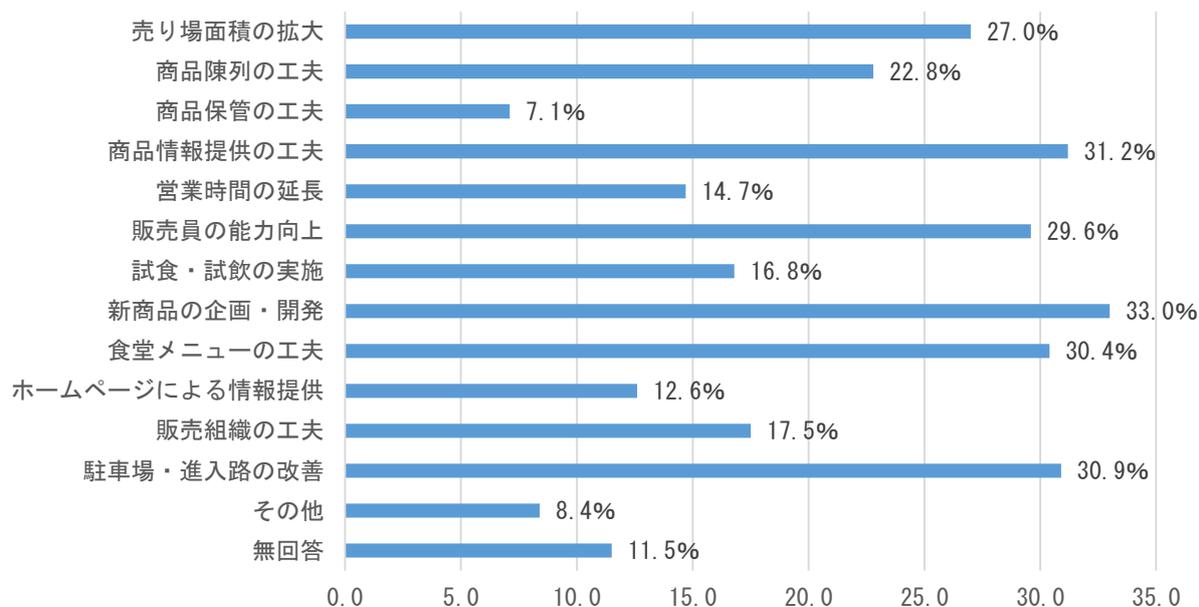
となることから、現在の手まめ館を利用している方はより頻繁に利用するようになり、また、現在利用頻度が少ない方やほとんど利用しない方は、利用回数が増えるようになると言えます。このことから、整備後の施設に期待する方が多いことが分かりました。

3 現在の農産物加工・直売所「手・まめ・館」についてお伺いします。

問14 現在の手まめ館の運営に関する要望や今後工夫すべき点をお聞かせください。（あてはまる番号のすべてに○） [複数回答]

（単位：人、%）

回 答 項 目	結 果	割 合
1. 売り場面積の拡大	103	27.0
2. 商品陳列の工夫	87	22.8
3. 商品保管の工夫	27	7.1
4. 商品情報提供の工夫	119	31.2
5. 営業時間の延長	56	14.7
6. 販売員の能力向上	113	29.6
7. 試食・試飲の実施	64	16.8
8. 新商品の企画・開発	126	33.0
9. 食堂メニューの工夫	116	30.4
10. ホームページによる情報提供	48	12.6
11. 販売組織の工夫	67	17.5
12. 駐車場・進入路の改善	118	30.9
13. その他	32	8.4
無回答	44	11.5



現在の手まめ館に関する要望や今後工夫すべき点等で最も多かったのは、「新商品の企画・開発」の33.0%で、次に「商品情報提供の工夫」の31.2%、「駐車場・進入路の改善」の30.9%、「食堂メニューの工夫」の30.4%と続きます。

その他の欄に記載いただいた内容は次のとおりです。

- ・ 公社にして運営すべき。 << 60代男性 >>
- ・ 客に対しての対応の改善、職員としての意識の向上を願う。 << 60代女性 >>
- ・ SNSでの情報。 << 40代男性、40代女性 >>
- ・ 他の売り場の研修、価格面について。 << 70代男性 >>
- ・ 移動販売。 << 80代女性 >>
- ・ 接客態度。お遣い物に使用できる鮫川ならではの箱菓子があると良い。 << 60代女性 >>
- ・ 夕方に行くと商品がない。 << 70代女性 >>
- ・ 職員の客に対する対応が悪い。大変悪い、売り場職員の教育をしないとだめである。環境面、衛生面の整備も必要であろうが、施設で働く人、職員の質の向上が一番の課題では？ << 60代男性 >>
- ・ 職員の客に対する接し方、やる気が足りない。 << 60代男性 >>
- ・ あいさつが出来ていない。 << 60代女性 >>
- ・ 東白堂のパンがおいしかったため、その味をひきついで営業してほしい。また、他県からも来ていたため客寄せになると思う。 << 60代女性 >>
- ・ いまのままで良いと思います。 << 70代男性 >>
- ・ カフェにもっと人が入るような努力。 << 30代男性 >>
- ・ 食べ方（料理の仕方）の提案（レシピの配布） << 50代男性 >>
- ・ カフェなどの店員の対応の仕方、もっと心をこめて、客に対応してほしい。 << 60代男性 >>
- ・ 外観を含めた施設としての魅力、清潔、キレイであるかどうか。 << 40代男性 >>
- ・ 特にありません。 << 60代男性 >>
- ・ 日用品など販売。 << 60代女性 >>
- ・ 商品の品質の確保。 << 70代男性 >>
- ・ ただでさえ狭い駐車場に係員の自家用車を置くのはいかがでしょうか？場合によっては地産地消にこだわらない、人が興味を持つ商品の販売、他から仕入れても売れば利益になるの

では？ 《年齢・性別ともに無回答》

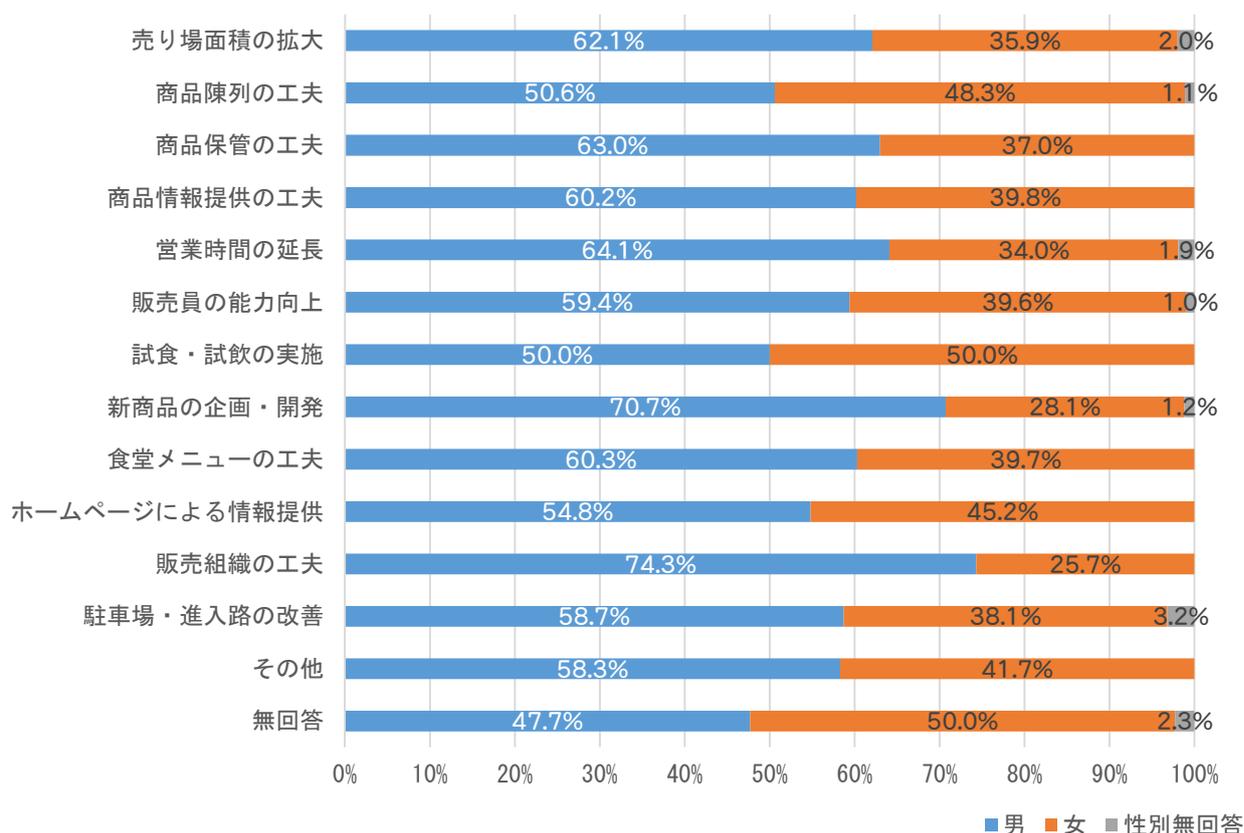
- ・館長の愛想の悪さには腹が立つ。あの人は村に貢献する気はあるのか。片手でお釣りを返すなんて客をばかにしているとしか思えない。 《60代女性》
- ・生産者の育成、農産物の品質向上、農産物のブランド化。 《60代女性》
- ・小売業の経営能力をもち、村の情報発信の出来る責任者を置き、生產品のブランド化を図れる指導者を設置すべき。 《70代男性》
- ・例えばはたけんぼ、みりょく満店の買い物客への応接は見習うべき。支配人は不在か。三位一体の手まめ館であってほしい。 《70代男性》
- ・特になし。 《50代男性》
- ・みかんやバナナといった、村でできないものも品ぞろえしてほしい。 《70代男性》
- ・店員の教育。 《60代女性》
- ・館長の能力向上。 《60代女性》
- ・買いたい物が少ない。 《60代女性》
- ・トレーニングセンターの駐車場を利用できると良い。 《70代女性》
- ・農産物生産者の確保（高齢化してます）。 《60代男性》

次に、手まめ館の運営や工夫すべき点等を性別ごとにみてみますと、男性の割合が最も多かったのが「販売組織の工夫（74.3%）」で、女性で最も多かったのが「試食・試飲の実施（50.0%）」でした。

■問1と問14のクロス集計（回答者の性別ごとの手まめ館の工夫すべき点等）

（単位：人、%）

回答項目	区分	結果				割合			
		男	女	無回答	計	男	女	無回答	計
1. 売り場面積の拡大		64	37	2	103	62.1	35.9	2.0	100.0
2. 商品陳列の工夫		44	42	1	87	50.6	48.3	1.1	100.0
3. 商品保管の工夫		17	10	0	27	63.0	37.0	0.0	100.0
4. 商品情報提供の工夫		68	45	0	113	60.2	39.8	0.0	100.0
5. 営業時間の延長		34	18	1	53	64.1	34.0	1.9	100.0
6. 販売員の能力向上		57	38	1	96	59.4	39.6	1.0	100.0
7. 試食・試飲の実施		25	25	0	50	50.0	50.0	0.0	100.0
8. 新商品の企画・開発		58	23	1	82	70.7	28.1	1.2	100.0
9. 食堂メニュー工夫		47	31	0	78	60.3	39.7	0.0	100.0
10. ホームページによる情報提供		17	14	0	31	54.8	45.2	0.0	100.0
11. 販売組織の工夫		26	9	0	35	74.3	25.7	0.0	100.0
12. 駐車場・進入路の改善		37	24	2	63	58.7	38.1	3.2	100.0
13. その他		7	5	0	12	58.3	41.7	0.0	100.0
無回答		21	22	1	44	47.7	50.0	2.3	100.0



4 地域活性化等に関して、ご意見があればご記入ください。(自由記述)

自由記述欄に記載いただいた内容については次のとおりです。(分野別にまとめています。)

■手まめ館について

①運営方法等について

- ・現在の手まめ館では、敷地等が狭すぎますので、利用するのに危険等がときどきあるので、駐車場を広げてほしい。 ≪70代男性≫
- ・道がわかりづらい。何回か「手まめ館」への行き方を聞かれた。手まめ館の内装ももう少し工夫した方がいいと思う。入りづらい。 ≪40代女性≫
- ・手まめ館への出荷者の高齢化を考えると、将来に不安を感じる。湯の田温泉をハウスに利用して、新しい農産物の生産は考えられないと思われる。「さぎり荘」を中心とした、あるいは手まめ館を中心とした全体像を考えた方が良いのでは？各施設が独立しすぎている。近隣の町村と比べて子育てしやすい環境を整えるべきであるとする。 ≪60代男性≫
- ・村内外への情報発信地として直売所は必要。利活用の検討必要。 ≪60代男性≫
- ・販売組織の工夫にはインターネットを使って。 ≪70代男性≫
- ・品物がたくさん棚にあってほしいです。行っても品物がないときもあって、何を買いいいかわからなかったです。 ≪50代女性≫

- ・手まめ館は農産物だけでなく、何でもそろ（食品）店であってほしい。問屋から仕入れて安く売ってほしいと希望します。 《70代女性》
- ・手まめ館の農産物、草花等をもっと安くしてほしい。塙の道の駅のように行ってみたい道の駅を希望します。 《60代女性》
- ・今後は他に鮫川村の特産の開発、一品が必要と思う。月1回（特売日）が必要と思う。多くの品をそろえることが必要と思う。 《70代男性》
- ・農産物生産を法人化してやっていければよいと思う（特産品の新たな開発）。 《60代男性》
- ・直売所に出している方々の高齢化が進んでいるので、長期的に見て若い生産者を育てる事業、制度があれば良い。 《60代男性》
- ・手まめ館の販売登録者問題。登録者名が貼られています、その方の畑に作物がなく、草ぼうぼうです。どのようになっているのでしょうか。商工会に入っていれば登録できるのでしょうか。他のスーパーより価格が高い。例えば米、もち米等。 《60代男性》
- ・お惣菜を買ったとき、「はし」が必要な時もらうのですが、「はし」がケースに入っていない。ケースに入った衛生的なはしにしてほしいです。野菜も利用したときに買うのですが、収穫した日など明記してあるといいと思います。「みりよく満点」「すだち」などは記載してあり、買うときに判断しやすいです。 《40代女性》
- ・以前に味噌をいただいたときに試食をしましたが、すこし塩分が多いような気がしました。 《50代女性》
- ・昨年の秋でした。切り花を購入したら、悪くなっていました。 《70代男性》
- ・他の直売所はときどき利用しますが、午後4時以後は食品売り場の品物がその日に販売するのはすべて半額でやっています。鮫川は夕方遅く来てもかなり高値です。 《60代女性》
- ・手まめ館へのお客様は遠くから来ていただいているので、それをまた鮫川にきていただくために、野菜のほか、平ケースの冷蔵庫が長くあったら、いろんな物を入れることができますし、買ってみようと思うのですが、平ケースの冷蔵庫を希望します。よろしく願いいたします。 《70代男性》
- ・鮫川でしか買えない、食べられない、できない、見られない等のオンリーワンがあったり、鮫川以外でも買える、食べられる、できる、見られる等の一般的なものでも無料だったら来村する人も増えると思う。「鮫川に行きたい」と思わせるインセンティブが必要だと思う。例えば、「手まめ館のざる豆腐、味が濃くて美味しいよね。」「週末買いに行こうよ。」「鮫川に行ったら温泉に無料で入れるらしいよ。」「じゃあ、行こうか。」「ただで入浴出来て得しちゃったね。」「鮫川に来たついでに食事と買い物していこうか」こんな感じ！ 《50代男性》
- ・食堂のメニューの工夫も必要でしょうが、味付けなど、また、作り方など勉強する必要があると思います。金を払って食べるようなものじゃないと思う。 《70代女性》
- ・販売力、生産力のアップを図るにあたって、JAの協力を求めてはどうでしょうか。農産物の種類が増えると自然と人が集まり、口コミで広まり、行ってみたいと思うようになると思います。ランチも食べたくくなりますし、コーヒーも飲みたくなるでしょう。ただ、食堂でもコーヒ

一を飲めたらいいと思います。移動するのは面倒かなと思います。商品の豊富さ、めずらしさ（ほかにないもの）に惹かれてまた来たいと感じてもらえたらいいかなと思います。営業時間は季節限定で夏は少し30分程度長くしてはどうでしょう。《60代女性》

- ・問14の9に関連のある弁当について、過去何年間も同一のメニューと思慮される。美的要素一等工夫がなされていないのではないかと他店の物を見て考えた方がよい。《70代男性》
- ・地域の活性化に対しての村民と役場（担当課）とかのアイデアなどの対話、みんなで造り上げていけばよいと思う。手まめカフェの水・木、連日の休みはいかがだと思います。木曜日は開けてほしい!! 《60代女性》
- ・現在、加工所の利用には1日4,000円かかります。村民の利用者はほぼゼロに近いです。無料で自由に使用できるようになれば手まめ館へ加工品を出したり惣菜を出したりと品物が増え、活性化につながると思います。このアンケートで生産者募集とありましたが、入会金の無料のキャンペーンなどをしてみてはどうでしょうか？手まめ館の情報を広報の中の1ページに設けて見れば村民の利用者が増えるのではないのでしょうか。《60代女性》

②職員の対応について

- ・手まめ館は、村の中心の発展には欠かせない直売所です。館長を主にスタッフ一人ひとりの接待が来客の心をつかみ、スタッフの教育が一番だと思います。《60代女性》
- ・館長の対応が？ 《50代女性》
- ・手まめ館館長の件。館長は自分の立場を分かっていない。SOSで声をかけてもカバーしてくれる気もない。管内の部署部署の仕事自体も把握できていない。これで良いのでしょうか。《60代女性》
- ・職員の対応（笑顔またはサービス業に適しているか？考えてほしい）。《60代女性》
- ・直売所は販売員の接客態度が悪くて、来店したくないという村内外のお客の声が多く出ています。食堂は、食事しているとき、ジロジロ見られていやな気分という声も多く出ています。《60代女性》
- ・手まめ館についていろいろ質問がありますが、お客さんが来ていても販売員同士で大声で話しかけられている様子が多々見られて、行く気が失せます。なるべく行かないようにしているのも事実です。《50代女性》
- ・レジの女の子の対応が悪い。女は愛嬌、笑顔。それだけで気持ちよく買い物した感じがする。それに比べてすまいるは何度も行きたくなるようなとてもプロ対応の店だ。手まめ館の職員はすまいるやほっとはうすに研修に行って見習うべきだ。ほっとはうすも支配人をはじめ従業員の方もとても親切で、何度も行きたくなるようになった。ほっとはうすのメンバーは変えずに、村のおもてなしの見本としてこれからもがんばってほしい。道の駅ができたときには、手まめ館の職員では鮫川村の「恥」である。全員変えるべきだ。村長が、すまいるのような素晴らしい従業員を育てたように、手まめ館の職員も一から教育しなおすべきだ。《60代女性》
- ・手まめ館は、村の情報発信の場として、販売員は村の情報を常にアンテナをはり、お客様に発信するとともに、季節感のある食事の提供、メニューの研究をしてください。カフェの水・木のお休みはとても不便、工夫してください。あいさつ、笑顔がない、コーヒーがまずくなります。がんばってみてね。《70代女性》

- ・小さい村でしかできないことが沢山あると思います。村民皆で力を合わせて輝く村づくりを望みます。手まめ館、カフェ店の従事者のサービスに対する基本姿勢が少し欠けていると思います。特にカフェの従事者の笑顔がない（いや～な感じがしてコーヒーがまずくなる）。
《70代男性》
- ・手まめ館や、特に手まめカフェの店員の接客態度が店に行った人に何回も聞くが全然悪いとのことである。8月頃までの話しであるが！！もっと勉強する点があるのではないか。そして、赤字経営と聞いているが、税金で給料を支払っているようでは、一般の店だったらとっくにつぶれている。もっと定員の教育と経営の仕方を考えるべきだ。赤字が続く経営はすぐやめるべきだ。手まめ館だけではなく、他の村でやっているすべてのものに言えることだ。他に村でやるにはいっぱいある。道路の整備、たとえば349号（滝ノ下～戸草）、内ヶ竜～大房の路線をしっかりとってもらいたい。 《60代男性》
- ・地域活性化拠点施設を作るとすれば、村に最小限に必要なものを作り、最後、無駄にならないような物を作ってほしい。無駄な金を投資せず、違う方向へ投資してほしい。直売所、カフェなどの客の対応の仕方、地元ばかりじゃなく外から客も来るので考えてほしい。地元で寄っても愛想が悪いので、外からの客はもっと感じると思う。特にカフェ。大きくするより小さいうちにそこを考えてほしい。 《60代男性》
- ・現在、手まめ館の利用が生活のより所となっています。単に食料品や野菜等の購入だけでなく、村外の人間に対しての受け入れ口として、とても暖かい対応に助けられています。（私自身、最近、村民となりましたので。）ただ、販売品の種類を増やして村民の要望に応えるだけでなく、村の「手まめ館」ならではの暖かい対応や農産物の説明等、街では味わえない役割・機能をさらに充実してほしいと思います。 《70代女性》

■ 中心地域活性化等について

- ・鮫川駐在所の裏の土地を利用すれば、内外からの利用はとても活性化につながると思う。
《80代女性》
- ・今後の村のために必要な整備である。大きな効果が期待される。 《60代男性》
- ・手まめ館以上の施設は必要ないと考えます！ 《60代男性》
- ・新たに作る必要なし。今ある物を有効に工夫して使う。 《70代女性》
- ・現在ある物の使い方を考えて、活性化してください。 《60代女性》
- ・まとめて集える場所ができることは良い事だと思います。誰もが気楽にお茶を楽しめるスペースを作ってほしいです。 《60代男性》
- ・道の駅等の大型施設は控えるべきだと思います。本村の未来の拠点施設は細分化ではなく、集約型で行くべきと考えます。 《40代男性》
- ・村内に小さな子どもを遊ばせられるキッズスペースがほしい。村内にキッズスペースがないので、村外へあそびに連れて行って、そのまま買い物などを済ませて帰るので、村内でお金を使う機会があまりない。 《20代女性》
- ・手まめ館を中心として、品数をいろいろ扱ってほしい。キャッシュレス、ポイント等のサービスの多様化に対応できるように取り組んでほしい。手まめ館を建て替え、周囲に子どもが楽し

める場所を設置する。高齢者も入れる場所を一緒にし、村民がみんな利用できる形が好ましい。 《60代女性》

- ・ 鮫川校と349号バイパスの間にある山を撤去して広場を作り、中心地域活性化拠点を作り、手まめ館、すまいる、図書館等を一堂にして施設を作る。そうすると役場側からの健康の道、遊歩道の活用ができる。頂上で、一望でき、憩いの場ができる。そのようなことから、村民の方々が関心を持ち、手入れ等の協力も得られると思う。前村長が館山を買収したのですから、これでもできなくはありません。数年はかかります。拠点場を充分検討をお願いします。道少田内、森重機前のほうではやがて来なくなると思う。 《80代男性》
- ・ 鮫川校との間の山を取り払い、つながればいろんなことが考えられると思います。館山の北の斜面を利用して子どもたちが遊べるスキー場はできないでしょうか。 《60代男性》
- ・ 中心地域活性化拠点施設は誰のために必要かを考えるべき。高齢化が進み、買い物弱者が増えるのは明白。現在の手まめ館、すまいるの機能を充実、拡大した施設にすべきと思う。 《60代女性》
- ・ 今の直売所は、村外の人には場所がわからない。どうせ建て替えるときは主要道路側が良い。古くなった手まめ館は、館山に来た人の駐車場にすればよいと思う。今の手まめ館にも雑貨を売ってほしい。すまいると一体化すればよいと思う。みんなに喜ばれるような施設であってほしい。大金がかかるのだから、よく慎重に考えた方がよい。 《60代女性》
- ・ 手まめ館とさぎり荘を同じ場所にして、道の駅化させて、手まめ館跡地に公園を造ることによって、子どもの遊び場、マルシェの場所の確保ができ、さぎり荘に来た客が手まめ館に寄ることで売り上げも増える。館山公園も、もっと花や木々を増やして季節感を感じるようにすることができれば、強滝のように写真家や観光地で村外の人を呼べるようになると思う。地域を活性化させるためには、村外の人をもっと呼べる場所を増やすべきだと思う。 《30代男性》
- ・ 来年は東京オリンピック等で新競技のスケートボードや3×3バスケ、スポーツライミングなど、子どもたちも見てやってみたいと思うような子がいるかもしれません。橋本酒店の隣の空き地に3×3の野外コートと子どもでもできるボルダリングのコース等を整備してはどうか。土・日の9:00~15:00くらいを新宿から中学校入口まで通行止めにしてスケートボードを自由にさせる。館山公園周辺にパークゴルフコースを造る。 《60代男性》
- ・ 若者が外で運動できる施設等。例→スケートパーク（スケボーのコース）、BMXコース（自転車のコース）等。これは東京オリンピック競技であり、小・中学生もオリンピック選手になれる可能性があるため。 《40代男性》
- ・ つるや旅館の温泉を活かす。宿泊施設を作り村外者を呼び込む。休耕地、畑、田を利用して都会の人に体験農業をしてもらい、ホームページでアピール、野菜取り、いも堀り、田植え、稲刈り。農業して温泉に入りうまい料理を食べ宿泊する。ツアーバスで。鮫川村の知名度が上がる。次第に活性化するのではないか！つるや、さぎり荘を中心に温泉を売りに充実した宿泊施設を作る。都会の人が喜ぶことを考え取り組む。鮫川うどん、そばを有名にする。うどんはたんぼぼで作っているものが良いと思うが、最近味が落ちて美味しくない。作り方が変わったか？昔の味に改良しなければ店には出せないだろう。手まめ館も敷地がせまいので、つるや付近に集約した方がよいと思う。とにかく広い敷地が必須。イベントを開催して集客できる広さが必要。まとまらない話ですみません。気持ちは分かってください。 《60代男性》

- ・村内の情報。役場だけでなく、個人での、店での、グループでの etc、楽しい情報や企画を、自由に提供し、見れる場、パネルや資料などを置けるところが拠点施設にあればいいのではと思いました。 《60代女性》
- ・今後、道の駅等を建設するにあたっては、村と別に独立採算性方式で実施してほしいです。 《60代男性》
- ・村の中心活性化は良いと思いますが、当地区から行く交通手段が少ないので、行くのが大変です。 《70代女性》
- ・「中心地域活性化・・・」中心地域にこだわらなくても、村全体が活性化すれば中心地域にこだわらなくてもいいのではないのでしょうか？中心地域で本気になる人が欲しいです。村内においても子どもたちが家にいなく、あと5年、10年したら、村内はどうなるでしょうか。そんな不安を抱えている人が多い中、村をどうするか……。必要なのはわかりますが、まず自分の家の問題で、私は頭がいっぱいです。申し訳ありませんが、アンケートの内容もイマイチピンとこない内容でした。家族と話しながら回答しましたが……。 《年齢・性別ともに無回答》
- ・小学生、中学生、高校生の意見を取り入れてほしいです。(独創的な意見がほしいので。) 《60代男性》
- ・地域の活性化は、経済の活性化。村の資産、資源を活用し、鮫川村ならではの産業を作っていくのが地域活性化につながるのでは？ 《70代男性》
- ・活性化の拠点施設単体では大きな効果は生まれないと思う。施設(既存のものを含む)の配置、景観、人の流れ等、長期的視点を明確に定め、トータルに事を進めてほしい。活性化を単発で終わらせることなく、人がどう心地よく生きられるか、人をどう呼び込むのか、村に貢献できる人材をどう育て、どう呼び戻すのかという未来的思考にシフトした村の経営をしていただきたい。このアンケートがどう反映されるのかも見守りたい。 《40代男性》
- ・現在、鮫川村には手まめ館を中心に、さぎり荘等目的に村外から多数の方々が来ていると思いますが、人間飽きる動物であるため、変わり映えがないと来村する人も減るとも増えることは難しいと思います。さらに活性化することは、私は賛成しております。今後できるだけ、手まめ館、さぎり荘に加え、楽しめる場所(施設)が近くにあると良いと思います。 《60代男性》

■村づくりについて

- ・難しいアンケートでした。村議員の皆様方が視察されているのを議会だよりで拝見いたしますが、議員の皆さま方の意見はいかがでしょうか。鮫川村が繁栄する見学視察はいままでおありだったのででしょうか。議員の方々のご意見もお伺いしたいです。もし、村民に伝えていただいているとしたら申し訳ありません。 《60代女性》
- ・村民が他人事と思わずに、自分が主役になって事業に関わることが必要だと思います。しかし、なかなかそれができない。難しい。 《50代男性》
- ・原因は人口の減少。空き家、空き地の活用と人口増めさせ。 《80代男性》
- ・村の人口の減少がはなはだしい中で、若い人たちの流出をふせぐ手立てが必要です。道の駅を作る(新しく)ことはないと思う。 《60代女性》

- ・ 役場職員の能力向上。ヘタなコンサルティング会社等を依頼して成功した例を聞いたことがない。自分たちの力で改善と活性化対策を講じるべきである。 《年齢・性別ともに無回答》
- ・ 正規職員、非正規職員数、多いのではないか。人員を考えてみては。その分を介護、養護老人ホームなどの方に回してはいかがでしょうか。待機している老人がいっぱいいます。 《60代男性》
- ・ (問9について) さも、村民が拠点施設の新設を望んでいる如くの前提でアンケート聴取をしているが、手まめ館の現状を見ると悲観的になる。18項目を備えた施設が隣接地に出現しているのに競争に勝てると思うのか? ピントがずれている。人のつながり、結びつきが強く、温かい村民性が薄れつつある現状を見ると、村の職員の中にも、以前からあった伝統や思いやりが無くなっている。鮫川村に対する情熱が感じられない。 《70代男性》
- ・ 地域活性化の一番は、いかに若い人たちが積極的に活躍する場があるかだと思います。村民一人ひとりが責任をもって、5年、10年先の村を考えて、それぞれができることから行動することも重要であると考えます。その先頭に立つのが行政ではないでしょうか。なかなか難しいですが、中心地域活性化拠点施設も必要だと思いますが・・・その施設が本当に村民にとって必要なのか・・・もう一度、村民みんな考えて話し合ってはどうか。今だからこそ、焦らずゆっくり歩んでもいいのではないのでしょうか。(何もしないという意味ではありません。村民にとって必要なことは積極的に行政が先頭に立って行動していただきたいのです。)絶対に、次の世代の負の遺産を残さないことを考えながら・・・。作家、五木廣之氏の著書の一部にこんなことが書いてありました。「戦後70年という捉え方を私はしていません。戦後新しい時代が始まってから、この国が70歳になったのだと・・・高齢になるほど選挙の投票率が高い。これでは、高齢者に有利な政策が多くなってしまいます。そうするとますます日本の高齢化が進んでしまう。国全体が古くなってしまふ恐れがある。経済をはじめ、社会を支えているのは勤労世代、とくに若い人が良い生き方ができなければ、とくに地域が衰退していきます。若い世代が安心して働き、暮らせる環境があつてこそ、高齢者の生活も保障されるのだ」と・・・。 《60代男性》
- ・ 地域活性化への取組みありがとうございます。①鮫川村の良さと問題点を幅広い世代の村民が共有すること。②どんな村にしていきたいか話し合い、短期(直近1年以内)、中期(4~5年先)、長期(10年、20年後)の村の姿(人々の暮らし、働く姿など)を描いて皆で見えるようにしていくとよいのではないかと思います。③住む場所の集約化(長期的に)は避けられないのでは? 7つの拠点? (最も難しい課題かもしれませんね。) 《50代男性》
- ・ 手まめ館の必要性がわからない。負の財産を作っては・・・。わざわざ手まめ館には買い物には行かない。1人あたりの借金をふやさないでほしい。一般の企業なら人件費から削減していくと思うが、日の丸親方、安泰か!! 納税者が苦痛だ。村県民税が高すぎ。何のサービスも無いのに。 《50代男性》
- ・ 今回のアンケートは建物を建てるのが前提のような気がします。今ある建物をリフォームや修繕しながらはできないのか。今回の台風で予算も使ったかも。建物を建てるより、子どもたちの教育費にあててほしいと思います。 《40代女性》
- ・ 鮫川村の身の丈にあった予算の使い方をお願いします。人口減少を食い止めるために、知恵を出し合い、皆で考えましょう。このまま人口が減少してしまうのではないかと不安です。 《60代女性》

- ・お金や時間、人を使うなら「今あるもの」にまずは目を向けてください。 《30代男性》
- ・何か施設をつくるとしても、中心地から離れていたり、点々バラバラだと利用しづらいし、遠いと不便なので、なるべく集中させて作って欲しい。また、現在の手まめ館の出荷状況等を見ても、ほかの直売所と比較しても品数等少ないと思われるので、今後村の生産者等を考慮すると道の駅にする必要はないと思う。金の無駄をなくし、子どものために使ってほしいと思う。小児時は村内の居を構えても、大きくなると転居したりしないよう、子育て世代に魅力ある対策をとってほしい。村外から人を呼び込めるような目玉になる場所があればと思う。イノシシ対策の電気柵は恒久対策にならないので、対策方法を見直してほしい。 《60代女性》

■ 公共施設等の整備について

- ・道路、路面の修復、改善が必要。来訪者が来たいと思える環境整備。鮫川村が他地域から近いと思えるような環境整備が必要で、そのうえで中心拠点施設を充実するべきと考える。 《50代男性》
- ・道路状況等をよく検討し、無駄遣いをなくすようにしてはどうですか。村民の借金になっては大変です。パフォーマンスだけでは村政はつくれぬ!! 《60代男性》
- ・地域による道路の整備をよくする。また、外の地域との道路をよくする。高齢者人口が年々減るためにいろいろな行事をもっと増やすようにしては。 《70代男性》
- ・村の中心に通じる道路の整備。県道71号線（広畑～遠ヶ竜）。国道349号（広畑～青生野） 《70代男性》
- ・働く場が少ないため、村外へ出る人が多いので、働く場所の近くに寄り住むようになり、人の流出も多く人口減少すると思うので、施設を作るより道路の整備が大事かと思えます。 《60代女性》
- ・村のどこにいても携帯電話の電波が入るようにしてほしい。今回の台風19号の被災で、電波が入らなくて連絡できなかったということがありました。台風に限らず、いざというときに村内のどこにいても電波が入るようにしてほしいと思います。中心部は入るかもしれないが、村のはずれは入りません。そのことも考えていただきたいと思います。 《50代女性》
- ・主要な施設は分散せずに近くにあったほうがいい。廃校の利用を何か考えてほしい。青生野小はトイレ、休憩スペースほしい。じっくり考えてから土地の購入、建物の購入をしてほしい。つるやの購入は大きな買い物。損失のないようにしてほしい。地域活性化に農業をしている人たちを大切に、農道や水路、改良、非耕作地の有効利用も大切な1つではないか？直売所も本村の物が一番大切では？JAから仕入れてやるのは楽だと思う。顔の見える農産物を大切にしてほしい。アンケートはぜひ一枚ずつ、村長も見てほしい!! 《40代男性》
- ・ほっとはうすが、行財政改革で懸案事項になっているようであるが、近年大変職員の対応もよく、道路等を整備し、存続させてはどうか。米、料理も良いと外部の人たちより大変良い評判である。湯の田温泉の営業戦略は考える必要なし。さぎり荘の整備に力を入れては？新たな事業に取り組みず、現在の村所有の土地等の見直しを。現在の鮫川村の財政で、小中一貫教育のために学校を建設するなんて考えであれば、現在の中学生一人1台タブレットを与え、IT（労力向上）。 《60代男性》
- ・村内の木材を、休日を利用して子ども、住民参加でログハウス・バンガローを作り、宿泊施設をつくる（キャンプ）。／TV電話を各家庭に設置し、高齢者の確認をできるようにする。／B

級グルメを開発しPRする。　　《40代男性》

■その他

- ・自然に恵まれ、星空に恵まれ、何もないけど、大きな災害が少ない過ごしやすいところは魅力だと思います。生活の不便さはあっても、穏やかな生活を送れることはすばらしいと思います。
《60代男性》
- ・自然豊かな鮫川村の景観を大切にすることを村民が持つことって大事だと思う。シルバー人材センターの作業（賃金）について、高齢者が多くなり、頼ることが多くなると思う。頼ることが景観を守る事にもつながる。作業員の方の賃金を上げてほしいと思う。村で助成。
《60代女性》
- ・村では働く場がないため、若者はみな村から離れざるを得ない。なんとか食い止めることをやらなければならない。　　《50代男性》
- ・住宅地を確保するため、農振除外、農地転用の簡素化。　　《50代男性》
- ・村外に勤務していると、7：00～21：00の村の情報がわからないので、WEBからの情報をキャッチしやすい環境整備を期待します。（回覧板の内容も紙媒体とネットの両方充実）
《40代女性》
- ・観光等で村内にきた場合、お金を落とせる場所、施設が少ない。ただ、「自然豊かな村」「ホッとすする村」では観光客は来ないのでは？観光客はある程度自然豊かで良い。ヘビやイノシシ等はゴメンだと考える人が多い。自然があって、商業施設等が充実していること、鹿角平キャンプ場の施設をもっと充実しては？手まめ館も他の施設も鹿角平に移転しては？観光客には集中していた方が良いのでは？　　《60代女性》
- ・私は、村で採れた食材をふんだんに使った料理を提供するレストラン（ビュッフェスタイルならより良い）があれば、村外から今よりたくさんの観光客が来るのではないかと考えています。価格は低めで、郷土料理も食べられるというのであれば、遠くから食べに来てくれる人は多いと思います。年に一度開催される「郷土料理を楽しむ会」[一度行きましたが、どの料理も美味しくて、村外の人にもぜひ紹介したいイベントです)をレストランで通年やるようなイメージです。しかも、少しだけおしゃれなイメージが加われば若いお客さんも来てくれるようになり、村のイメージ向上につながって、もしかしたら移住してくれる・・・なんていうこともあるかもしれません。子育て世代で食に対する意識の高い人は結構たくさんいると思うのです。村の新鮮な食材とおいしい料理で鮫川村をアピールするのが良いと思っています。《40代女性》
- ・長くできるイベントや見る物等（例：塙のダリア園）　　《60代男性》
- ・地域活性化、村中心だけにしても。他の地域にはいろいろと見物できる場所もあるので、そちらも一緒にし、観光やイベント。中心地以外も目を向けて。　　《50代女性》
- ・親子でキャンプをします。鮫川には大自然、豊かな鹿角平など、素晴らしい場所があるので、そこを他県や県内から人が集まるよう整備してほしいと思います。「公園（長いすべり台やアスレチック）、キャンプ施設」。鮫川に住んで5年ほどたちますが、正直どこにどんな施設があって利用できるかなど、情報が分かっていません。鮫川をアピールできていないと思います。
《30代男性》

- ・ 1. 台風19号の際の災害対策本部とその活動は適正だったのか。行政区長との連携は緊密だったのか。ある区長の不満を耳にした。
- 2. 副村長、教育長不在で、村長が村民の生命、財産の保守を果たせるか、不安視する。
- 3. さぎり荘は誰のための施設か。利用者の統計データいかに。
- 4. かつての清き川の流れてほしい。やまめの魚影を見える川に。今更のようなアンケート調査のような気がしてならない。郵便代が無駄とにならないよう祈る。《70代男性》
- ・ 特になし。新村長に大いに期待してます。 《60代男性》
- ・ 鮫川村はとても素晴らしい所だと思っていましたが、先の村長選挙には正直がっかりしました。過疎の村をなんとか活性化しようとした選挙だと思いましたが、内容は、怪文書、二セ電話、買収等が横行しウンザリ。このような行為をした人が当選するとは……。とても今後の村政を心配しています。 《40代女性》
- ・ 若者が住みやすい村にする。村営住宅の家賃が収入によって高くなるのは仕方ないが、子どもが小学校に入る頃、村内に住宅を建てる際には村営住宅の家賃（住み続けた分）の半分以上を住宅資金に返還し、若者に村に住み続けてもらい、地域活性につないでほしい。家賃が5万円台なら、便利（交通、商店）のある町に住んでしまうと思う。また、リフォーム時の資金補助金。 《40代男性》

○まとめ

これまでのアンケート調査結果をみますと、拠点施設の整備は一定の効果があるのではないかと期待を寄せる方が多かったと言えます。

ただし、そのためには、他の既存公共施設との連携を図るとともに、現在の運営体制を見直し、単なる直売所の運営になることなく、村の産業や雇用、暮らしを守る重要な役割が課せられていることを十分に認識し、整備を進めていかなければなりません。

村民の皆さまへ

鮫川村中心地域活性化拠点施設整備に関するアンケートのお願い

村が平成29年3月に策定した「鮫川村中心地域活性化基本構想」は、「活気ある地域づくりを生むような、村内住民が集える場」、「村外からの来訪者の窓口となったり、村の情報を得たり、村をめぐるスタート地点となる場」、「地域の基幹産業である農林業の振興に寄与できる場」、「住民と行政の協働により、賑わいをつくる場」、「地域の食材や食文化など、「食」を活かして創造的に展開できる場」の5つの基本目標を設定し、「新しい鮫川村の象徴としての中心地域整備」を提言しています。

こうしたことから、令和元年6月に鮫川村地域活性化協議会が設置され協議を進めています。

その中で、農産物加工・直売所「手・まめ・館」は、老朽化に伴い衛生面及び環境面に課題があること、施設の一部に耐震性能の不適が認められ耐震改修が必要とされていること、施設に接続されている道路の交通安全確保が求められていること、駐車場が狭いことなどの課題を解決するために、農産物加工直売所の建て替えが喫緊の課題とされています。

また、子育て家庭を村全体で支援する視点から、多面的な子育て支援を積極的に推進し、若い世代が安心して子どもを生み、健やかに育てていくことができる環境づくりが求められています。

そこで、村民の皆さまが「中心地域活性化拠点施設」に期待することなどを把握し、「鮫川村中心地域活性化拠点施設整備計画」に反映することを目的として、村内の全世帯を対象としたアンケート調査を行います。

皆さまには、お忙しいところお手数をおかけいたしますが、ご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、いただいたアンケートの回答は、この調査の目的以外には使用いたしません。

令和元年12月

鮫川村中心地域活性化協議会

～アンケートご記入にあたってのお願い～

- このアンケートは、氏名の記入は必要ではありません。
- このアンケートは、家族のどなたがお答えしてもかまいません。
- ご回答は、設問ごとに、あてはまる番号を選んで、○印で囲んでください。なお、一部、記入する設問もあります。
- ご記入いただいたアンケート用紙は、**令和元年12月27日(金)まで**に、添付の返信用封筒(切手を貼る必要はありません)に入れ、ポストに投函してください。(直接、農林商工課へお持ちいただいても結構です。)
- このアンケート調査についてのお問い合わせ、ご不明な点などがございましたら、下記までお願いいたします。

事務局:鮫川村農林商工課 電話 0247-49-3113

2 村に「中心地域活性化拠点施設」を整備する場合についてお伺いします。

問9 「村民のため」、「子育て世代のため」、「道路利用者又は村外からの来訪者のため」の3つの視点から、あなたが「中心地域活性化拠点施設」に必要と思われる番号を【選択肢】の中から3つ選んでください。また、【選択肢】にない施設・機能があれば、その他の施設の欄に施設・機能などを記入してください。

視点	下記の【選択肢】から3つ選んで番号を記入してください。			その他の施設
1. 村民のために必要な施設・機能				
2. 子育て世代のために必要な施設・機能				
3. 道路利用者又は村外からの来訪者（観光など）のために必要な施設・機能				

【選択肢】

必要な施設・機能(取組み)	イメージ
1. 農産物直売	農産物、工芸品等の販売
2. 食品加工施設	大豆製品などの加工品の製造
3. 物販販売	日用食品、生活用品等の販売
4. 飲食施設	食堂・レストラン、フードコート
5. 喫茶施設	コーヒー等の飲料を提供
6. ミルクプラント	牛乳や加工品の6次製品化施設
7. 地域・観光情報を発信する機能	観光やイベント情報提供
8. 道路・観光マップ・管内図等の掲示	目的地までの案内等の情報提供
9. 災害時の避難施設	災害時に避難場所等に活用できる施設
10. 防災のための機能	防災のために必要な機能を整備
11. 放課後児童クラブ	小学校放課後に児童を預かる施設
12. 公園・広場	遊具等を設置し子どもが遊べる施設
13. 授乳室・おむつ替え施設	子どもを持つ保護者が安心して利用できる施設
14. 室内遊び場	室内遊具や児童書を設置し、子どもが遊べる施設
15. 研修室	村民や農産物等生産者の研修活動等に多目的に利用可能な施設
16. 多目的交流広場	屋外でイベント等が開催できる空間や多様な世代が休憩することができる施設
17. テナント又はレンタルスペース	起業者支援のために一時的に利用できる施設
18. 体験型農園	果実の摘み取り体験などができる体験農園
19. 特にない	

※駐車場・トイレは、整備することを前提としていることから選択肢から除いています。

問10 村に「中心地域活性化拠点施設」を整備する場合、村の産業や地域に、どのような効果をもたらすことを最も期待したいですか。(あてはまる番号に3つまで○)

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------|
| 1. 地産地消（村で生産された農産物などが村で消費すること）が進む | |
| 2. 村の農業が活性化する | 3. 特産品開発などが進む |
| 4. 村の知名度やイメージが向上する | 5. 新たな観光拠点が誕生し観光振興につながる |
| 6. 来訪者が増え、村に活気が生まれる | 7. 村の商工業が活性化する |
| 8. 働く場や機会が増える | 9. わからない |
| 10. その他（ | ） |

問11 村に「中心地域活性化拠点施設」を整備する場合、日々の暮らしなどに、どのような効果をもたらすことを最も期待したいですか。(あてはまる番号に3つまで○)

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1. 趣味や余暇を楽しめる場が増える | 2. 村内で買い物がしやすくなる |
| 3. 村内で飲食がしやすくなる | 4. 交流の場や機会が増える |
| 5. 防災設備が整い、地域の防災力が高まる | |
| 6. 子ども向けの環境が整い、子育てがしやすくなる | |
| 7. わからない | |
| 8. その他（ | ） |

問12 村にある資源などで、次のうち、どれを生かすと鮫川村の個性、鮫川村らしさのある「中心地域活性化拠点施設」になると思いますか。(あてはまる番号に3つまで○)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. まめで達者なむらづくり | 2. 大豆・えごまの特産品 |
| 3. 村の農産物 | 4. 酪農（牛乳） |
| 5. 郷土料理 | 6. 特産品を使った料理 |
| 7. 子育てしやすい村の環境 | 8. 館山公園などの景勝地 |
| 9. 村の歴史や文化財 | 10. わからない |
| 11. その他（ | ） |

問13 あなたが問9でお答えいただいた「中心地域活性化拠点施設」に必要だと思う施設・機能が整備された場合、あなたはどの程度利用したいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|-------------|-------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に2～3回程度 | 3. 週に1回程度 |
| 4. 月に1～2回程度 | 5. 半年に数回程度 | 6. ほとんど利用しない |

3 現在の農産物加工・直売所「手・まめ・館」についてお伺いします。

問14 現在の「手・まめ・館」の運営に関する要望や今後工夫すべき点をお聞かせください。
(あてはまる番号のすべてに○)

1. 売り場面積の拡大	2. 商品陳列の工夫	3. 商品保管の工夫
4. 商品情報提供の工夫	5. 営業時間の延長	6. 販売員の能力向上
7. 試食・試飲の実施	8. 新商品の企画・開発	9. 食堂メニューの工夫
10. ホームページによる情報提供	11. 販売組織の工夫	12. 駐車場・進入路の改善
13. その他 ()		

◎ 今後、「手・まめ・館」へ農産物やお惣菜などを出荷したい、出荷を検討したいとお考えの方で、詳しい内容をお知りになりたい方は、個別にご案内やご説明をいたしますので、ご連絡先をご記入ください。

氏名	
住所	鮫川村大字 字
電話番号	0247- -

4 地域活性化等に関して、ご意見があればご記入ください。(自由記述)

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。